



Japan Weightlifting Association

# ウェイトリフティング



JWA 保管用  
室外持ち出し厳禁

1992

No.53

(社) 日本ウェイトリフティング協会会報



# ウェイトリフティングN.O. 53

## 目 次

親子リフターシリーズ第5回	2
第6回全国女子選手権大会 兼 第6回世界女子選手権大会代表選手選考会	5
第13回全日本ジュニア選手権大会 兼 第18回ジュニア世界選手権大会代表選手選考会	9
第6回ジュニア・アジア選手権大会	12
第24回アジア選手権大会	15
第25回オリンピック大会日本代表選手選考会	18
第38回全日本学生個人選手権大会	25
第4回全日本女子学生選手権大会	28
第18回ジュニア世界選手権大会	29
第6回世界女子選手権大会	35
クラブ紹介	43

※ 表紙は60kg級全種目の日本記録保持者岩田(旧姓村木)洋介。  
82.5kg級の砂岡と共にオリンピック3回連続代表となる。

## 親子リフターシリーズ第5回

☆ FATHER&SON ☆ FATHER&SON ☆ FATHER&SON ☆ FATHER&SON ☆ FATHER&SON ☆

# 三宅義行&敏充・敏博

☆ FATHER&SON ☆ FATHER&SON ☆ FATHER&SON ☆ FATHER&SON ☆ FATHER&SON ☆

「ウエイトリフティングの三宅」といえば、いまだに40~50才以上の多くの人が憶えています。また「三宅兄弟」という4文字も、メキシコオリンピック大会の時に、広く知れわたりました。

双子のように兄弟そっくりということで、東京オリンピック大会の時、会場の入り口で兄義信氏と間違えられ、ファンにサインをせがまれ、悠然とサインしていたひょうきんな義行氏であったが、その後、兄に続いてオリエンピックメダリストになり、実力でサインをしてあげられるようになりました。

現在、二人の息子さんがいて、ウエイトリフティングを行なっており、またまた、第二の「三宅兄弟」の誕生をと早くもプレッシャーをかける向きもありますが、まずは、兄弟にウエイトリフティングを本気になって好きになり、父親兄弟のように高い目標を持ち、バーベルと格闘してもらいたいものです。

### 父親のプロフィール

生年月日 1945年9月30日  
出身 宮城県  
勤務先 自衛隊体育学校

Q) ウエイトリフティングを始めた動機は何でしたか?

A) ウエイトリフティング部の先生に勧められて始めました。

Q) 現役時代のもっとも思い出に残る出場大会は何でした。

A) メキシコオリンピック大会です。兄と一緒に表彰台にのれたことは、一生の思い出です。吾が最良の日でした。

Q) ベスト記録はいくつでしたか?

A) 60kg級でプレス130kg、スナッチ120kg、ジャーク150kg、トータルは395kgです。トータル400kgの突破を兄より先に達成するのが悲願で

したが、兄に先を越され、大きな目標を失ってしまった感じでした。

Q) 現役時代の「信念」「信条」のようなものをお聞かせください。

A) 初志貫徹

Q) 息子さんへの期待とアドバイスをお聞かせください。

A) ウエイトリフティングの面白さだけを追ったり、トレーニングのためのトレーニングになることなく、半年、一年と目標を定め、それを達成するよう全力を尽くして努力して欲しい。

Q) 現役リフターにアドバイスをひとつ。

A) 基本が外れると、素質が十分に発揮しきれなくなるので、基本の徹底を意識して欲しい。

Q) 趣味は何ですか?

A) ゴルフです。

1968年、メキシコオリンピック大会60kg級銅メダルを賭て、気迫に満ちた三宅義行氏のジャーク147.5kgの挑戦。



## 兄、敏充君のプロフィール

生年月日 1973年8月19日

出身 埼玉県

出身校 埼玉栄高校

所属 法政大学1年生

Q) ウエイトリフティングを始めた動機はなんでしょうか？

A) 父親に勧められて始めました。

Q) ウエイトリフティング開始前に何かスポーツをやっていましたか？

A) テニスをやっていました。

Q) 身長と常時体重をお聞かせください。

A) 174cm、73kgです。

Q) 現在のベスト記録はいくつですか。

A) 67.5kg級スナッチ105kg、ジャーク120kgトータル225kgです。

Q) 短距離走のベストタイムを教えてください。

A) 50m走6.6秒、100m走12.9秒です。

Q) 主な出場大会と記録について話してください。

A) 第6回全国高校選抜67.5kg級4位(トータル220kg)と、第38回全国高校総体67.5kg級7位(トータル225kg)があります。

Q) 今までで、もっとも印象に残った出場大会はなんですか？

A) 第38回全国高校総体に出場し、接戦で体重差の7位(同記録最上位は5位)で、ちょっと残念でしたが、印象に残る試合でした。

Q) 現在もっとも強化を意識しているものは



スナッチのセンスの良さは長所。筋肉をもつとつけ、ジャークの地力をつけて大きくはばたけ！ 兄敏充君。

なんですか？

A) スクワットです。

Q) ウエイトリフティングでの自分の長所と短所はなんですか？

A) 特に長所はないと思いますが、体がかたいという短所があります。

Q) 「信念」とか「信条」はありますか？

A) どうせやるなら日本一！

Q) 近い将来の目標はなんですか？

A) スナッチ120kg、ジャーク140kgを挙げることです。

Q) 夢かも知れないが、やってみたいと思う最高目標はなんですか？

A) スナッチ130kg、ジャーク160kgを挙げることです。……これでは日本一になれませんゾ！

Q) お父さんについてどう思いますか？

A) 同じスポーツをやってみて、父の偉大さを改めて知りました。

Q) どんな趣味を持っていますか？

A) テニスです。

Q) 特技はありますか？

A) ピアノを弾くことです。……一度聞きたいものですね。

Q) 好きな食物はなんですか？

A) ハンバーグ。

Q) 嫌いな食物はなんですか？

A) つけものがどうも好きになれません。

Q) 尊敬する人物はいますか？

A) 貴花田。

Q) 好きな有名人、アイドル、タレント等はいますか？

A) 中井貴一

Q) 将来何になりたいですか？

A) 教師です。

ちょっと、お父さんの性格・趣味と違うような気もしますが、お母さんに似たのでしょうか？ 長所がないなんてことはありませんヨ、自分のいいところを見直して、自信を持って頑張ってください。

## 弟、敏博君のプロフィール

生年月日 1975年6月15日

出身 埼玉県

出身校 新座第二中学校

所属 埼玉栄高校2年生

Q) ウエイトリフティングを始めた動機はなんでしょうか？

A) 面白半分に始めました。

Q) ウエイトリフティング開始前に何かスポーツをやっていましたか？

A) テニスとゴルフです。

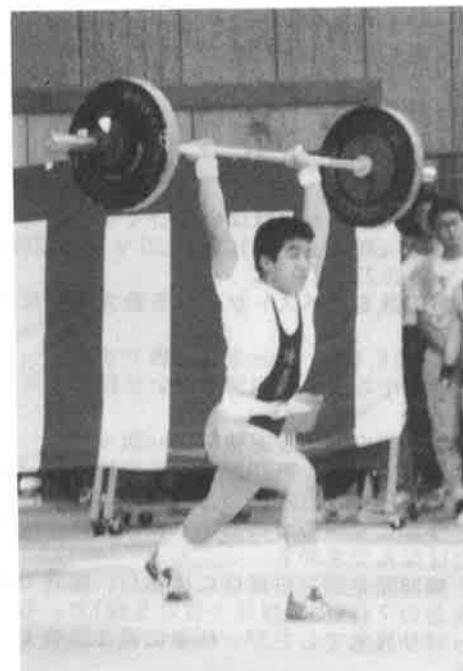
Q) 身長と常時体重をお聞かせください。

- A) 164cm、65kgです。  
 Q) 現在のベスト記録はいくつですか。  
 A) 67.5kg級スナッチ97.5kg、ジャーク122.5kg、トータル220kgです。  
 Q) 今まで、もっとも印象に残った出場大会はなんですか？  
 A) 昨年の高校新人戦で、優勝の気分が味わえたことが印象に残っています。  
 Q) 現在もっとも強化を意識しているものはなんですか？  
 A) デッドリフト、スクワット、スピードの3つです。  
 Q) ウエイトリフティングでの自分の長所と短所はなんですか？  
 A) 長所は人の話をよく聞き、自分なりに努力すること。短所は両ひじが伸びない。……お父さんもや、肘が伸びない感じでしたね。  
 Q) 「信念」とか「信条」はありますか？  
 A) 練習で絶対に弱音を吐かない。  
 Q) 近い将来の目標はなんですか？  
 A) インターハイで上位入賞。  
 Q) 夢かも知れないが、やってみたいと思う最高目標はなんですか？  
 A) オリンピックで金を取ること。……その意気！ 同じ体重、同じ人間同士の闘いです！ 勝負は日頃の気力の積み重ねが問題です。  
 Q) お父さんについてどう思いますか？  
 A) 自分の意志を通す人。頑固で気が短い。……似なくともいいとこもありそうですね。  
 Q) どんな趣味を持っていますか？  
 A) 音楽鑑賞。  
 Q) 特技はありますか？  
 A) マット運動。  
 Q) 好きな食物はなんですか？  
 A) 肉。  
 Q) 嫌いな食物はなんですか？  
 A) 特に好き嫌いがありません。  
 Q) 尊敬する人物はいますか？  
 A) 父。  
 Q) 好きな有名人、アイドル、タレント等はいますか？  
 A) 氷室京介と高田純次。  
 Q) 将来何になりたいですか？  
 A) 実業家です。

どちらかというと敏博君の方がお父さんの性格に似ているような気がします。それにしても兄弟共にお父さんを尊敬していますが、羨ましいですね。我々も我が子に尊敬されるよう、もう一度オリンピックを目指してガンバルか！という訳にはいきませんよ！

敏博君、今年の春に両手首をトレーニング中に骨折し、しばらくトレーニングができるなかったのですが、その後順調に回復している

のことです。本当にやたらにケガをしてはいけません。相撲の千代富士のように、ケガをしながら強くなっている人もいますが、ケガしても強くなれるケガと、そうでないケガもあります。とりあえずは、骨折するとそこ骨が太くなるといわれています。心配しないで頑張ってください。



体形、性格、センス、素質的にはバランスがとれており、将来性に大きな期待が持たれる弟敏博君。あとはつまらないケガをしないよう気をつけましょう！

## 第6回全国女子選手権大会 兼 第6回世界女子選手権大会代表選手選考会

# 斎藤さと美(48kg級) 三種目共日本新記録!

平成4年4月3日、埼玉県立スポーツ研修センターにおいて、第6回世界女子選手権大会代表選手選考会を兼ねて、第6回全国女子選手権大会が行なわれた。

今大会は、過去最高の、14都府県から57名の選手が参加したが、これは4日・5日に同会場で行なわれた、全日本ジュニア選手権大会の参加人数を上回るほどであった。

### <44kg級>

この春、埼玉栄高校を卒業し、埼玉短期大学に進学した今真紀子が、スナッチ55kg、ジャーク65kgを挙げて優勝。今はスナッチは3本成功したが、ジャークでは2・3本目で、いずれも70kgをクリーンしたものの、差すことはできなかった。

### <48kg級>

世界選手権に4回連続出場の田中智子(埼玉短大)と、44kg級から階級を上げてきた斎藤さと美(日体大)の一騎打ちとなった。

スナッチでは1本目、田中は60kg、斎藤は62.5kgにそれぞれ成功。2本目で田中が自己の持つ日本記録65kgを前に落としたのに対し斎藤は同記録を成功。3本目で田中は65kgを完全にスナッチしたもの、残念ながら僅かのところで、時間切れタイムオーバー直後の試技であったため失敗であった。一方、斎藤は67.5kgの日本新記録に見事成功。さらに特別試技で70kgに挑戦したが、こちらは失敗に終わった。

ジャークにおいては、田中が80kgを1本目でプレスアウトの失敗。2本目で成功、3本目で自己の持つ日本タイ記録に成功した。斎藤は1本目82.5kgの日本タイに成功、2本目で85kgの日本新記録に成功。3本目には87.5kgの日本新記録に挑戦したが、惜しくも前に

差して失敗した。この後、特別試技で田中は85.5kgに、斎藤は87.5kgに挑んだが、二人ともクリーンできなかった。トータルでは斎藤が152.5kgと、田中に10kgの差をつけて優勝した。

### <52kg級>

日本体育大学を卒業した植村ひろみが埼玉栄高校の高橋 秦を寄せつけず、トータル165kgの大会タイ記録で優勝した。植村はスナッチ70、72.5kgに成功したが、日本タイの75kgは後ろに振って失敗した。ジャークでは90、92.5kgに成功した後、95.5kgの日本新記録に挑戦したが、クリーンできなかった。

高橋は、スナッチ65kgを後方に振った後、2本目で成功。3本目は70kgを前に落として失敗した。ジャークでは82.5kgを軽々と差し上げたものの、2・3本目で87.5kgをクリーンできず、トータル147.5kgに終わった。高橋は、3月の高校選抜で最優秀選手賞を受賞しており、今後の活躍が期待される。

### <56kg級>

日本体育大学の阿部真美と埼玉栄高校の石戸恵子が、3位以下に大差をつける形となった。石戸はスナッチ1本目で65kg、3本目で70kgに成功。ジャークは1本目で90kgに成功2・3本目は92.5kgをクリーンできなかったが、トータル160kgをマークした。しかし、阿部に追つくにはまだ力の差が一步足りなかった。

阿部はスナッチ2本目で、植村ひろみの持つ日本タイ記録の77.5kgに成功したが、3本目と特別試技の80kgの日本新記録には、どちらも軽く引いたものの、後方に振って惜しくも失敗した。ジャークにおいても90、95、大会新の97.5kg3本とも成功、特別試技では植

村の記録を500g上回る、100.5kgに挑んだが、クリーンすることができなかった。結局阿部はトータル175kgの大会新で優勝した。

#### <60kg級>

今大会唯ひとつ、接戦の末に勝敗を分けたのがこのクラス。昨年度優勝の阿部知子(京都シティスポーツ)と、60kg級での優勝歴がある安田直子(日体大)とほぼ互角の一騎打ちとなった。

スナッチでは、阿部は1本目72.5、2本目大会新の75kgに成功。安田は1本目に70kgに成功したが、2本目の75kgで足を滑らせて失敗。かなり危険な姿勢で失敗し、周囲を驚かせたが、めげずに3本目で軽々と成功、再び場内を驚かせた。阿部は3本目に77.5kgに失敗、勝負はジャークに持ち込まれた。

ジャークでも両者激しく競り合い、阿部が3本目の95kgに失敗した時点で、体重差で安田の優勝は決まったが、安田は最後の試技の95kgを力強く成功し、トータル170kgの大会新をマーク、一步差をつけた。

3位に入った高校生(埼玉栄高)の友松めぐ(トータル155kg)、同じく高校生(沖縄尚学高)の仲嘉真理(トータル137.5kg、4位)。柔道から転校の埼玉短期大学1年の高橋百合子ら話題の多いクラスであった。

#### <67.5kg級>

52kg級の植村と共に、6連勝を遂げることは誰も疑っていなかった長谷場久美(埼玉栄高・教)であったが、今回は体調不十分なのか自己のベスト記録にスナッチで5kg、ジャークで2.5kg及ばずながら、堅実な試技展開と成功率で、トータル200kgを挙げて優勝した。

60kg級から上がってきた安宅あかね(日体大)は、長谷場の牙城を脅かすにはまだまだではあるが、ジャークで102.5kgを挙上、日本では数少ない、長谷場、植村に次ぐ3人目の女子ジャーク100kg台リフターとなつた。

#### <75kg級>

昨年、突如デビューし、優勝した翁長真由美(日体大)は、スナッチ75kg、ジャーク97.5kg、トータル172.5kgと、3種目共大会新をマークし大方の期待通り立派に成長、2連勝を

果たした。

#### <82.5kg級>

先の高校選抜で好成績を挙げ、波に乗っている新井深雪(埼玉栄高)が、またまた好記録を出した。スナッチで67.5kgの日本新記録を挙げた後、ジャーク90、92.5kgとトータル160kgの、計4個の日本新記録を樹立して初優勝した。将来が期待できるひとりだ。

#### <+82.5kg級>

女子リフターの最年長者、山下恵美子(関東トナミ運輸)が、スナッチ3本目で67.5kgの日本新記録に挑戦したが、惜しくも前に落として失敗、トータル150kgで5連勝した。人材の少ない重量級にあっては、育ってくる若手の目標としていつまでも頑張って欲しい。

今大会の結果から、以下の9選手が、5月にブルガリアで行なわれる予定の、第6回世界女子選手権大会代表として選ばれた。

48kg級	斎藤さと美(日本体育大学)
	田中智子(埼玉短期大学)
52kg級	植村ひろみ(京都府体協)
56kg級	阿部真美(日本体育大学)
	石戸恵子(埼玉栄高)
60kg級	安田直子(日本体育大学)
	阿部知子(京都シティスポーツ)
67.5kg級	長谷場久美(埼玉栄高・教)
	安宅あかね(日本体育大学)

メダルを目指して頑張れ!

第6回全国女子選手権大会  
兼 第6回世界女子選手権大会代表選手選考会

● 平成4年4月3日 ● 埼玉県立スポーツ研修センター

44kg級

順位	氏名	県名	所属	年令	体重	スナッチ			ジャーク			ベスト		トータル
						1	2	3	1	2	3	スナッチ	ジャーク	
1	今 真紀子	埼玉	埼玉短大	1974	43.10	50	52.5	55	65	70	70	55	65	120
2	小河 久美三	重	埼玉短大	1972	42.85	40	×	40	42.5	60	62.5	65	×	105
3	高柳 奈未	群馬	利根川高	1975	42.90	40	45	47.5×	55	60	60	45	60	105
4	徳森 悅子	大阪	大工大高	1974	43.35	32.5	35	37.5×	50	×	50	×	50	85
5	瀬口 恵美	山梨	谷村工高	1975	43.75	30	×	30	35	×	40	45	47.5×	75

48kg級

順位	氏名	県名	所属	年令	体重	スナッチ			ジャーク			ベスト		トータル	
						1	2	3	1	2	3	スナッチ	ジャーク		
1	斎藤さと美	京都	日体大	1973	47.80	62.5JR	65	○	67.5JR	82.5JR	85 JR	87.5×	67.5JR	85 JR	152.5JR
2	田中 智子	埼玉	埼玉短大	1964	47.65	60	65	×	65	×	80	×	80	82.5JR	142.5
3	今 昌子	埼玉	埼玉栄高	1975	47.25	42.5×	42.5	45	57.5	60	62.5×	45	60	105	
4	近藤 香	山梨	平井鉄工	1973	47.85	45	47.5	50	×	52.5	57.5×	57.5×	47.5	52.5	100
5	柴林 三恵	兵庫	相生産業高	1975	46.85	40	×	40	42.5×	50	52.5×	52.5	40	52.5	92.5
6	芽沼唯希子	茨城	石岡第一高	1975	46.05	32.5	35	37.5×	45	47.5	50	×	35	47.5	82.5

★ 斎藤さと美 スナッチ 70 × ジャーク 87.5 × ★ 田中 智子 ジャーク 82.5 ×

52kg級

順位	氏名	県名	所属	年令	体重	スナッチ			ジャーク			ベスト		トータル	
						1	2	3	1	2	3	スナッチ	ジャーク		
1	植村ひろみ	京都	京都府体協	1969	51.90	70	72.5	75	×	90	△	92.5○	95.5×	165 △	
2	高橋 奏	埼玉	埼玉栄高	1974	51.85	65	×	65	70	×	82.5	87.5×	87.5×	82.5	147.5
3	阿部健子	岡山	倉敷クラブ	1973	51.00	57.5×	57.5	60	77.5	80	82.5×	60	80	140	
4	東條 和恵	兵庫	立命館大	1973	51.55	52.5	55	57.5×	62.5	65	67.5×	55	65	120	
5	園田 和枝	山形	日体大	1973	50.40	50	52.5	55	×	60	62.5	65	52.5	115	
6	岩永小百合	山梨	岩永玩具	1963	51.00	42.5	47.5	50	×	65	70	×	72.5×	112.5	
7	佐藤久美子	兵庫	舞子工	1975	51.25	40	42.5	45	×	55	57.5	60	42.5	100	
8	関戸 君佳	山梨	谷村工高	1975	50.75	40	45	×	47.5×	50	55	×	55	90	
9	安田 直美	東京	日体大	1973	51.80	35	×	35	37.5	50	52.5	55	×	37.5	90

56kg級

順位	氏名	県名	所属	年令	体重	スナッチ			ジャーク			ベスト		トータル	
						1	2	3	1	2	3	スナッチ	ジャーク		
1	阿部 真美	埼玉	日体大	1972	55.85	72.5	77.5○	80	×	90	95	△	97.5○	175 ○	
2	石戸 恵子	埼玉	埼玉栄高	1975	55.50	65	70	×	70	90	92.5×	92.5×	70	90	160
3	根尾 明美	埼玉	自衛隊体学	1965	54.70	47.5	52.5	55	67.5	72.5×	72.5	55	72.5	127.5	
4	近藤千恵	山梨	谷村工高	1975	54.35	55	57.5	60	×	65	67.5	70	57.5	67.5	125
5	鶴野 祐子	栃木	小山高	1974	54.80	50	55	60	×	65	70	×	70	125	
6	小西美由賀	兵庫	三木東高	1976	54.85	47.5×	47.5	50	60	62.5×	62.5	50	62.5	112.5	
7	井口こづえ	群馬	利根東高	1974	55.55	47.5	50	52.5×	57.5	62.5×	62.5×	50	57.5	107.5	
8	城迫 奈美	広島	府中東高	1975	55.80	40	45	47.5×	55	60	60	×	45	55	100
9	高部 美紀	山梨	谷村工高	1975	54.80	37.5	40	×	40	52.5	55	×	55	52.5	92.5
10	板倉 栄子	群馬	利根東高	1975	55.80	40	42.5×	42.5×	50	52.5×	55	×	40	50	90

★ 阿部 真美 スナッチ 80 × ジャーク 100.5×

60kg級

順位	氏名	県名	所属	年令	体重	スナッチ			ジャーク			ベスト		トータル	
						1	2	3	1	2	3	スナッチ	ジャーク		
1	安田 直子	京都	日体大	1973	58.65	70	75	×	75	○	90	95	×	95 △	170 ○
2	阿部 知子	京都	ハイブリット	1967	59.60	72.5△	75	○	77.5×	87.5×	87.5	95	×	87.5	162.5
3	友松 めぐ	埼玉	埼玉栄高	1974	59.55	62.5	67.5	70	×	82.5	87.5×	87.5	67.5	87.5	155
4	高橋百合子	埼玉	埼玉短大	1973	59.85	60	65	70	×	80	85	×	85	85	150

順位	氏名	県名	所属	年令	体重	スナッチ			ジャーク			ベスト		トータル
						1	2	3	1	2	3	スナッチ	ジャーク	
5	仲嶋 真理	沖縄	沖縄尚学高	1975	57.20	57.5×	57.5	62.5×	75	80	80	57.5	80	137.5
6	塙屋 雅恵	埼玉	埼玉栄高	1976	59.20	52.5	57.5	57.5×	70	72.5	72.5	52.5	72.5	125
7	金井 和美	群馬	利根実業高	1974	59.95	52.5	55	55	65	70	70	55	65	120
8	久保田ひさよ	群馬	(株)トヨ-	1973	59.55	45	50	52.5×	55	60	60	50	60	110
9	小堀恵里子	群馬	利根実業高	1976	58.95	42.5	45	47.5×	57.5	60	60	45	57.5	102.5
10	小室奈美子	茨城	磯原高	1976	58.40	35	37.5	40	45	47.5	50	40	50	90

### 67.5kg級

1	長谷場久美	埼玉	埼玉栄高・教	1963	67.00	82.5	87.5△	90	×	105	110	112.5	87.5△	112.5	200
2	安宅あかね	京都	日体大	1971	66.15	67.5	70	72.5	×	95	100	102.5	70	102.5	172.5
3	倉内 留美	東京	日体大・教	1966	67.10	60	65	67.5	×	80	85	85	65	85	150
4	西山 陽	大阪	大工大高	1974	62.35	52.5	52.5	57.5	×	70	75	75	52.5	75	127.5
5	中下 綾子	埼玉	自衛隊体学	1972	62.80	55	55	60	×	67.5	70	72.5	55	70	125
6	小川華奈子	広島	鈴鹿峯女高	1976	63.40	52.5	52.5	55	55	65	70	72.5	55	65	120
7	佐藤 志穂	山形	羽黒高	1976	63.30	42.5	47.5	50	×	57.5	62.5	65	47.5	62.5	110
8	関口 幸恵	栃木	葛生高	1976	60.55	45	45	47.5	55	57.5	62.5	65	45	62.5	107.5
9	青山 智子	茨城	磯原高	1975	62.55	37.5	40	42.5	55	60	62.5	62.5	42.5	60	102.5

### 75kg級

1	笠長真由美	沖縄	日体大	1972	69.35	70	△	75	×	75	○	92.5○	97.5○	100	×	
2	中野 由紀	山梨	谷村工高	1974	73.65	50		52.5	55	×	70	72.5	72.5	52.5	70	122.5

### 82.5kg級

1	新井 淩雪	埼玉	埼玉栄高	1975	75.75	65	JR	67.5JR	70	×	85	○	90	JR	92.5JR	67.5JR	92.5JR	160JR
---	-------	----	------	------	-------	----	----	--------	----	---	----	---	----	----	--------	--------	--------	-------

### +82.5kg級

1	山下恵美子	埼玉	トナミ連輸	1952	93.40	60		65	JR	67.5×	80	85	90	×	65	JR	85	150
---	-------	----	-------	------	-------	----	--	----	----	-------	----	----	----	---	----	----	----	-----

# 第13回全日本ジュニア選手権大会代表選考会

## 橋(60kg級)

### 22年振りのJr日本新！！

本大会は、ジュニアのトップレベルのリフターにとっては、バルセロナオリンピック大会出場の、最後のチャンスがあり、この大会で第18回ジュニア世界選手権大会の代表選手となり、そこで挙げた記録の如何によってオリンピック代表になれる可能性が残されているため、その射程距離にあるヤングパワーにとっては、重要な大会となった。

そんな背景のもとで行なわれた本大会において、一部の階級で突出した好記録が誕生。会場のファンを喜ばせてくれた。

#### <52kg級>

今回は、注目のリフター不在のこのクラスであったが、吉原(明治大)と齊藤(明治大)が接戦の末、1位と2位を分け合った。同じ明治同士、しかも同じ兵庫県出身同士で、上位など珍しいことであった。

#### <56kg級>

52kg級は同じ大学同士、同じ出身県同士であったが、このクラスでも、まったく同じような結果になり、伊森(日本大)と具志堅(日本大)の沖縄県出身同士が1位と2位を分け合った。

内容的には、実力的に一步上回る伊森が、ジャークで135kgの大会新をマーク。トータル235kgで具志堅に7.5kgの差をつけ初優勝。

#### <60kg級>

今大会最高の脚光を浴びたのがこの60kg級。昨年度2位の橋(日本大)が、急速に実力をつけ、スナッチ120kgの大会新、ジャーク153kgとトータル272.5kgのふたつのジュニア日本新記録を樹立。ダントツの優勝を遂げた。

トータルの従来のジュニア日本記録は、加藤正雄(中京大)が1970年に樹立した270kg、それを22年振りに更新する快挙であった。ジャークは齊藤 隆(日体大)が1973年に樹立した152.5kg、これも19年振りに破る、素晴らしいものであった。

#### <67.5kg級>

ひざの怪我で低迷を続ける堀越(日体大)は“怪我をしていても堀越”といった期待感がある。とはいっても、今は、スナッチ120kg、ジャーク155kg、トータル275kgと、60kg級の橋のトータルを僅かに2.5kg上回る、物足りない記録での優勝。しかし、これで堀越はジュニア全日本3連勝の偉業を達成した。

#### <75kg級>

昨年度5位の鳥沢(日体大)が大躍進、スナッチ127.5kg、ジャーク155kg、トータル282.5

kgで初優勝を遂げた。

#### <82.5kg級>

昨年度まで、特に注目をうることがなかった、いわば“無名”ともいえる稻垣(日本大)が、全日本ジュニア初出場で優勝を遂げた。記録は、スナッチ130kg、ジャーク170kg、トータル300kgと、全日本ジュニアのこのクラスのチャンピオンとしては“並”のレベルであり、ラッキーな優勝ではなく、実力の優勝であった。

#### <90kg級>

ひとこころ不調であった、昨年度82.5kg級優勝者佐野が、早稲田大学から自衛隊体育学校に移籍、クラスも90kg級に上げ、気分一新で今大会に出場したが、成功率が今一つつながらず、スナッチ1本137.5kg、ジャーク1本167.5kg、トータル305kgながら、復調途上といった感じの内容で2連勝を果たした。

#### <100kg級>

昨年度2位の刀禰(自衛隊体育学校)が、2位の米田(日本大)を圧し、トータル290kgで初優勝を遂げた。

#### <110kg級>

このクラスはまさに実力伯仲の激しい三つ巴戦が演じられ、結果はスナッチ132.5kg、ジャーク160kg、トータル292.5kgの同記録を上位3名が挙げ、体重差で優勝吉本(法政大)、2位大嶋(中央大)、3位柳田(明治大)の順で收まった。高校生の青木(小山高)も、スナッチで131kgの高校新記録更新に挑んだが、惜しくも失敗した。

#### <+110kg級>

高校生の小松(日大明誠高)が、ジャークで157.5kgとトータル282.5kgの高校新記録を樹立して初優勝。110kg級の青木と共に将来が楽しみな重量級のホープである。

大会終了後、以下の10名の第18回ジュニア世界選手権大会代表選手が決定した。

52kg級	吉原祐介	(明治大)
56kg級	伊森和博	(日本大)
	具志堅剛	(〃)
60kg級	橋 典人	(〃)
	桐原正仁	(〃)
67.5kg級	堀越典昭	(日体大)
75kg級	鳥沢克秀	(〃)
82.5kg級	稻垣英二	(日本大)
90kg級	佐野 衛	(自衛隊体育学校)
110kg級	吉本久也	(法政大)

**第13回全日本ジュニア選手権大会  
兼 第18回ジュニア世界選手権大会代表選手選考会**

● 平成4年4月4日 ● 埼玉県立スポーツ研修センター

**52kg級**

順位	氏名	県名	所属	生年	体重	スナッチ			ジャーク			ベスト		トータル
						1	2	3	1	2	3	スナッチ	ジャーク	
1	吉原 祐介	東京	明治大	1972	51.40	90	92.5	95 ×	115 ×	115	117.5 ×	92.5	115	207.5
2	斎藤 和巳	東京	明治大	1973	51.55	85 ×	85	87.5 ×	115	120	125 ×	85	120	205
3	今吉 正憲	福岡	福岡大	1972	51.55	80 ×	80	85 ×	100	107.5	112.5	80	112.5	192.5

**56kg級**

1	伊森 和博	沖縄	日本大	1972	55.80	100	105 ×	105 ×	130	135 ○	142.5 ×	100	135 ○	235
2	具志堅 剛	沖縄	日本大	1972	55.70	95	100 ×	100	125	127.5	130 ×	100	127.5	227.5
3	岩佐 正宏	宮城	日本大	1974	55.50	97.5 ×	97.5	102.5 ×	122.5	127.5 ×	127.5 ×	97.5	122.5	220
4	古庄 弘幸	徳島	中央大	1972	55.55	100	105 ×	105 ×	117.5	122.5 ×	125 ×	100	117.5	217.5
5	岩崎 明	大分	九共大	1972	55.80	92.5	97.5	100 ×	115	120 ×	120 ×	97.5	115	212.5
6	古川 俊	青森	日本大	1972	55.80	90 ×	90 ×	90	120	122.5 ×	122.5 ×	90	120	210
7	田所 千典	大分	法政大	1973	55.90	85	90 ×	90	115	120	122.5 ×	90	120	210
8	村田 明文	茨城	法政大	1972	56.00	90	95 ×	95 ×	120	125 ×	125 ×	90	120	210

**60kg級**

1	橋 典人	北海道	日本大	1972	59.75	110	115	120 ○	140	147.5 ○	153 JJ	120 ○	153 JJ	272.5JJ
2	桐原 正仁	山梨	日本大	1972	59.85	107.5	112.5 ×	115 ×	137.5	142.5	150 ×	107.5	142.5	250
3	宮路 由久	鹿児島	大商大	1973	59.75	110	115 ×	115	125	130 ×	130 ×	115	125	240
4	中井 成彦	兵庫	中央大	1972	59.85	105 ×	105	110 ×	125	130 ×	130 ×	105	125	230
5	田中 邦彦	山梨	日本大	1974	59.25	102.5	107.5 ×	107.5 ×	125	130 ×	130 ×	102.5	125	227.5
6	新村 厚樹	石川	明治大	1973	59.85	82.5 ×	82.5	90	102.5	110 ×	110 ×	90	102.5	192.5

★ 橋 典人 ジャーク 159.5×

**67.5kg級**

1	堀越 典昭	栃木	日本大	1972	67.45	115	120	122.5 ×	145	150	155	120	155	275
2	富永 佳孝	徳島	日本大	1972	66.60	110	115 ×	115 ×	150	155	160 ×	110	155	265
3	村岡 勝	山口	明治大	1973	66.80	105	110	115	135 ×	135	ヰ	115	135	250
4	山本 俊康	福岡	九共大	1973	67.00	107.5	112.5 ×	112.5	130	135	140 ×	112.5	135	247.5
5	大津 行範	静岡	法政大	1972	65.40	105	110 ×	110 ×	130	132.5	135 ×	105	132.5	237.5

**75kg級**

1	鳥沢 克秀	埼玉	日本大	1972	73.55	120	127.5	130 ×	150	155	157.5 ×	127.5	155	282.5
2	渡辺 直人	山梨	日本大	1973	74.00	112.5	117.5	120	145	150	155 ×	120	150	270
3	森田 稔哉	東京	早稲田大	1973	72.85	110 ×	110 ×	110	150	155	160 ×	110	155	265
4	白井 和人	北海道	明治大	1973	73.60	105	110	115 ×	135	142.5	147.5 ×	110	142.5	252.5
5	小林 二彦	埼玉	拓殖大	1973	73.70	110	115	120 ×	135	140 ×	142.5 ×	115	135	250
6	伊藤 正登	千葉	明治大	1974	74.80	100	105	110 ×	125	130 ×	130	105	130	235

## 82.5kg級

順位	氏名	県名	所属	生年	体重	スナッチ			ジャーク			ベスト		トータル
						1	2	3	1	2	3	スナッチ	ジャーク	
1	稻垣 英二	埼玉	日本大	1972	82.35	130 ×	130	135 ×	160	170 ×	170	130	170	300
2	安井 盾	大阪	明治大	1974	80.65	115	120	122.5×	145	152.5	155	120	155	275
3	堂七 広治	埼玉	自衛隊体学	1972	82.35	122.5	127.5×	127.5×	145	150	152.5×	122.5	150	272.5
4	武貞 大地	兵庫	中央大	1973	76.95	115	120	120 ×	140 ×	140 ×	140	115	140	255
5	諏訪 知宏	熊本	明治大	1973	79.35	110 ×	110	120	135	140 ×	140 ×	120	135	255
6	甲斐 寿博	福岡	九州大	1972	78.85	110 ×	110 ×	110	135	140 ×	140 ×	110	135	245

## 90kg級

1 佐野 衛	埼玉	自衛隊体学	1973	89.95	137.5×	137.5	142.5×	167.5	172.5×	172.5×	137.5	167.5	305
2 木村 芳広	北海道	士別商高	1974	83.35	115	120	120 ×	140	145	150 ×	115	145	260
3 加川健太郎	北海道	明治大	1972	89.25	110	117.5×	120 ×	145 ×	145 ×	145	110	145	255

## 100kg級

1 刀根 徹	埼玉	自衛隊体学	1972	94.95	125 ×	125	130	160	170 ×	170 ×	130	160	290
2 米田 誠	青森	日本大	1973	95.35	122.5	127.5×	127.5×	150	155	160 ×	122.5	155	277.5
3 岩井 弘和	福岡	法政大	1972	99.45	110	117.5×	117.5×	145	150	157.5×	110	150	260

## 110kg級

1 吉本 久也	沖縄	法政大	1973	101.20	125 ×	125	132.5	160	165 ×	165 ×	132.5	160	292.5
2 大鷲 学	秋田	中央大	1972	105.75	125	130	132.5	160 ×	160	165 ×	132.5	160	292.5
3 柳田 竜哉	栃木	明治大	1972	107.40	132.5×	132.5	135 ×	160	167.5×	167.5×	132.5	160	292.5
4 青木 延明	栃木	小山高	1974	106.15	120	125	131 ×	155	160 ×	160 ×	125	155	280
5 加藤 大明	福岡	法政大	1972	101.05	115 ×	120	120	150	155	160 ×	120	155	275
6 赤坂 克之	宮城	日体大	1974	105.80	115 ×	115	120 ×	150	150 ×	150	115	150	265

★ 青木 延明 スナッチ 131 ×

## +110kg級

1 小松 政志	山梨	日大明高	1974	120.45	120	125	127.5×	150	157.5IR	160 ×	125	157.5IR	282.5IR
2 佐藤 秀志	秋田	中央大	1973	142.05	105	110	115 ×	130	137.5	145 ×	110	137.5	247.5

## 第6回ジュニア・アジア選手権大会

# 中国ジュニア恐るべし！ 韓国重量級後継者続いて輩出

第6回アジア・ジュニア選手権大会は、第24回アジア選手権大会と同時開催で、4月11日から15日の5日間、中国の福建体育館で行なわれた。

オリンピック標準記録突破の場となつてはいるものの、日本のジュニア選手中からは記録到達見込みのある選手は少なく、今回は56kg級の塚本誠進のみにそのチャンスが与えられた。

### <52kg級>

中国の19才のLIU WEIGUOが、同じ中国の16才のYAN BINを降して優勝したが、同記録体重差であった。それにしてもYANのスナッチの記録は115kg、僅か16才にしてこの大記録、なんと末恐ろしいことであろう。

### <56kg級>

中国の19才のCHAN TAOが韓国のKO KWANGKUを寄せつけず、15kgの差をつけトータル267.5kgで楽勝した。しかし、ジャークは3本目に成功、危うく失格するところであった。

塚本は標準記録235kgを目指し、スナッチ95kgからスタート。まずスナッチで100kg台に載せなければ望み薄のところ、95kgを3本目にかろうじてクリアーという際どさ、結局標準記録達成はならなかつたが3位に入賞。メダルを土産に持ちかえることができた。

### <60kg級>

LI CHUANGHUANとXIE ZHIHONGの中国選手同士の、ほぼ互角の優勝争いとなり、16才のLIが5kg差でトータル280kgを挙げ、優勝を遂げた。

### <67.5kg級>

中国の18才のYANG LEIが、トータル325kgで2位の同じ中国の18才のLI JUNRONGに15kgの差をつけて楽勝した。

### <75kg級>

中国のQUAN QIYONGが自己ベスト記録に大幅に及ばなかつたが、トータル305kgで単独トップで楽勝した。

### <82.5kg級>

中国の19才のWAN YUANFENGが、トータル345kgで圧勝、試技の成功は1本1本計2本であった。

### <90kg級>

韓国の19才のOH BYUNGRYONGと中国の19才のZHAO HUIが一騎打ちを演じ、ジャークで力量の上回るOHが、ZHAOのジャークの全試技が終わってから、第1試技で182.5kgを挙上、トータル332.5kgで2.5kg差の優勝を果たした。

### <100kg級>

韓国のKANG MINGSUKが、この大会としてはさして目立たない記録、トータル327.5kgで2位に12.5kgの差をつけて優勝。

### <110kg級>

韓国の19才のCHUNG DAEJINが、急速に実力を伸ばし、失敗なしのパーフェクト試技で、スナッチ165kg、ジャーク210kg、トータル375kgという素晴らしい記録を挙げて楽勝優勝。重量級に強い韓国の層の厚さを感じさせた。

### <+110kg級>

+110kg級は、まったく珍しいケースで、日本のインターハイ チAMPION クラスでも優勝できるほど低調な記録、トータル257.5kgであった。まさに大穴場であったが、優勝者の台湾の17才のPAN TAIYENの体重165.2kgも結構注目を浴びた。

最近のアジアのジュニアの進境は目覚ましく、日本のシニアのトップリフターでも軽量級から中量級までほとんど勝てなくなってしまい、重量級で一部勝てそうなクラスがあるのみとなってしまった。

本当にJWAは真剣に、抜本的対策を講じなければ、アジアからも遠ざかっていくばかりになるであろう。

## 第6回ジュニア・アジア選手権大会

● 1992年4月11日～15日 ● 中国 福建体育馆

### 52kg級

順位	氏名	国名	体重	スナッチ			ジャーク			ベスト		トータル		
				1	2	3	1	2	3	スナッチ	ジャーク			
1	LIU WEIGUO	CHN	51.95	110	115	×	115	×	135	140	142.5×	110	140	250
2	YAN BIN	CHN	52.00	105	112.5	115	130	135	137.5×	115	135	250		
3	KIL NAMSU	PRK	51.90	95	100	105	×	125	130	135	100	135	235	
4	WU KUN CHAN	TPE	50.35	80	×	80	×	80	105	110	112.5×	80	110	190

### 56kg級

1	CHAN TAO	CHN	55.95	115	×	115	122.5	145	×	145	×	145	122.5	145	267.5
2	KO KWANG-KU	KOR	54.80	105	110	112.5	135	140	145	×	112.5	140	112.5	140	252.5
3	塙本 誠唯	JPN	55.60	95	×	95	×	95	125	130	×	130	95	130	225
4	CHEN HSI HSIEN	TPE	54.95	82.5	90	×	90	100	107.5	107.5	107.5	90	107.5	107.5	197.5

### 60kg級

1	LI CHUANGJUAN	CHN	59.80	120	125	130	×	155	160	×	160	×	125	155	280
2	XIE ZHIHONG	CHN	59.80	115	120	122.5	×	155	×	155	160	×	120	155	275
3	SUBHI	IRQ	59.80	112.5	117.5	120	135	145	×	145	145	×	120	135	255
4	KO SUNG-IK	KOR	59.80	105	110	115	×	140	145	147.5	×	110	145	145	255
5	GUO TAIZHI	TPE	59.75	92.5	97.5	×	97.5	115	120	125	×	92.5	120	120	212.5
6	MOHAMMAD	IRN	60.00	85	×	85	×	85	105	112.5	117.5	×	85	112.5	197.5

### 67.5kg級

1	YANG LEI	CHN	67.25	140	145	×	145	180	×	180	190.5	×	145	180	325
2	LI JUNRONG	CHN	67.35	135	140	×	140	165	×	165	170	170	140	170	310
3	KIM HAK-BONG	KOR	67.25	125	×	125	130	167.5	175	182.5	125	175	125	175	300
4	HAMID M	IRN	67.35	95	102.5	107.5	×	122.5	122.5	127.5	102.5	127.5	102.5	127.5	230
5	LIN WEN KUANG	TPE	67.10	95	100	×	100	120	125	130	×	100	125	125	225
6	M.VASSKEH	IRN	61.20	80	×	80	95	110	122.5	122.5	80	122.5	80	122.5	202.5

### 75kg級

1	QUAN QIYONG	CHN	72.20	140	×	140	145	160	167.5	×	167.5	170	145	160	305
2	KUO WEN CHUNG	TPE	74.60	112.5	×	112.5	115	135	142.5	150	150	112.5	142.5	142.5	255
3	SEYED	IRN	75.00	100	112.5	115	130	140	142.5	142.5	142.5	115	130	130	245

### 82.5kg級

1	WANG YUANFENG	CHN	80.95	155	157.5	×	160	×	190	202.5	×	202.5	155	190	345
2	LEE SANG-JOON	KOR	81.75	125	130	135	×	165	170	175	130	175	130	175	305
3	KEOSBAYAR TS	MGL	81.95	127.5	132.5	135	152.5	157.5	157.5	157.5	135	157.5	135	157.5	292.5
4	FARZAD	IRN	80.95	125	130	135	×	150	157.5	157.5	157.5	130	150	150	280
5	WANG YUANFENG	TPE	79.85	115	122.5	127.5	×	135	142.5	142.5	142.5	122.5	135	135	257.5

## 90kg級

順位	氏名	国名	体重	スナッチ			ジャーク			ベスト		トータル
				1	2	3	1	2	3	スナッチ	ジャーク	
1	OH BYUNG-RYONG	KOR	89.50	145	150	152.5×	182.5	190	×	190	×	332.5
2	ZHAO HUI	CHN	86.20	145	150	152.5×	180	×	180	×	180	330
3	ARASH V	IRN	87.35	105	112.5	120	132.5	140	150	×	120	140
4	WEI ZHIPING	TPE	83.45	100	105	110	130	132.5×	137.5	110	137.5	247.5

## 100kg級

1	KANG MIN-SUK	KOR	95.90	140	×	140	147.5	180	190	×	190	×	327.5
2	A BIGLARI	IRN	90.10	130		137.5	142.5×	165	172.5		177.5		315
3	LEE SANG-KEUN	KOR	99.70	125		130	135	160	170		177.5		312.5
4	A JANBBARI	IRN	94.05	110		125	130	×	140	155	×	155	265

## 110kg級

1	CHONG DAE-JIN	KOR	103.30	160	×	160	165	200	205	210	165	210	375
2	A RAHIMI	IRN	101.05	100		105	110	130	135	145	110	145	255
3	CHIEN YI	TPE	105.30	90		102.5×	107.5×	120	140	147.5×	90	140	230

## +110kg級

1	PAN TAI YEN	TPE	165.20	107.5	117.5	122.5	135	147.5×	150	×	122.5	135	257.5
2	M SADEGH	IRN	122.20	105	115	120	135	147.5×	147.5×	120	135	135	255

## 第24回アジア選手権大会

# 小野寺、豊田、西川、富樺 オリンピック標準記録突破

バルセロナ オリンピック出場権獲得のチャンスをめぐり、第24回アジア選手権大会は前回第23回大会が茨城県神栖町で開催されながら、変則的ながら僅か4ヶ月足らず後に、第6回アジア・ジュニア選手権大会と同時開催で、4月11日から15日の5日間、中国の福岡体育館で行なわれた。

バルセロナ代表を既に確定してしまったのか、有力国北朝鮮及びインドネシアなどの不参加もあったが、82.5kg級の砂岡の保持するスナッチ165.5kgのアジア記録が中国のLI YUNNANに破られるなどをはじめ、6つのアジア新記録が誕生する盛況をみせた。

### <52kg級>

中国の20才のLIN QISHENGが、同じく中国の24才のZHANG ZAIRONGを5kg差で下し、トータル255kgで優勝。

小野寺(日本体育大)はトータル225kgで4位、豊田(自衛隊体育学校)は220kgで5位、共にオリンピック標準記録を突破した。

### <56kg級>

中国のLUO JIANMINGの一人舞台になるはずのところが、スナッチ130kgで失格。北朝鮮のKIM YONGCHOLに、1階級下の今大会の52kg級の優勝記録を5kg下回る、トータル250kgでラッキーな優勝が転がり込んだ。

中西(兵庫県警)は、標準記録235kg到達を目指し、ジャーク127.5kgに3度挑戦したがいずれも失敗し、失格してしまった。

### <60kg級>

韓国のCHUN BYUNGKWAN、中国のLIN GUAFUとZHANG YOUNIの3人が、レベルの高い記録で激しく優勝争いを演じ、トータル297.5kgでCHUNがZHANGを2.5kgリードして優勝した。

28才のベテラン小栗はジャーク140kgを挙げればトータル250kgで、標準記録をクリア一できるところであったが、惜しくも3度失敗し失格に終わった。

### <67.5kg級>

中国の28才のLI JINHEがトータル320kgで優勝したが、18才のジュニアの部の優勝者、中国のYANG LEIは、トータル325kgとLIより5kg上回る記録で優勝。シニアの部優勝のLIの陰を薄くした。

日本の林はスナッチ122.5kgからスタート、1本も取れずに失格してしまった。

### <75kg級>

エントリーでの優勝候補筆頭の中国のSHANG BAOQUANがスナッチで失格、中国のLIN WEN SHENGが、韓国のCHIO BYUNGCHANにトータルで10kgの差をつけ優勝。

### <82.5kg級>

中国の28才のベテランCAI YANSHUがスナッチ165kgを成功させ、順調な滑り出しを見せたが、同じ中国の21才のLI YUNNANが、スナッチで166kgのアジア新記録を樹立、それがあおられてか、CAIはジャークで波を崩し、200kgを3本共取れず失格してしまった。LIはスナッチほどジャークの出来はよくなく、192.5kg1本成功のみに終わり、トータル357.5kgで優勝した。

杉山は、体調を崩し絶不調、スナッチ130kg、ジャーク160kg、トータル290kgで7位に終わり、標準記録から遠退いてしまった。

### <90kg級>

アジアで敵なしの韓国のKIM BYUNGCHANがジャークの第2試技で213kgのアジア新記録を樹立、トータル382.5kgで優勝の連勝優勝を果たした。

西川はよく健闘し、トータル330kgの標準記録到達者となった。

### <100kg級>

前回不参加のイラクチームが今回は出場、この100kg級をNAZZRが制覇した。

### <110kg級>

韓国のCHUN SANGSUKが他を寄せつけず、圧倒的実力差でスナッチ180.5kgとトータル390kgのアジア新記録を樹立、優勝を飾った。

富樺はトータル355kgの自己新記録をマーク3位に入る健闘を見せ、標準記録を5kgオーバー、最終選考会最後の出場資格獲得者となつた。

36才の大ベテラン大川は、スナッチ、ジャーク共に失格に終わった。

### <+110kg級>

アジア最強のリフター、韓国のKIM TAEHYUNが成功率計2本ながら、ジャーク230kg、トータル410kgのアジア新記録を樹立、2位に55kgの大差をつけて連続優勝を遂げた。

## 第24回アジア選手権大会

● 1992年4月11日～15日 ● 中国 福建体育馆

### 52kg級

順位	氏名	国名	体重	スナッチ			ジャーク			ベスト		トータル		
				1	2	3	1	2	3	スナッチ	ジャーク			
1	LIN QISHENG	CHN	51.85	110	115	×	115	140	145	×	145	115	140	255
2	ZHANG ZAIYONG	CHN	52.00	115	121	×	121	135	135	×	135	115	135	250
3	KIL NAMSU	PRK	51.90	95	100	105	×	125	130	135		100	135	235
4	李智浩	JPN	51.90	95	×	95	97.5	122.5	122.5	127.5		97.5	127.5	225
5	豊田 広和	JPN	51.70	100	102.5	105	×	117.5	122.5	122.5	×	102.5	117.5	220
6	LEE CHIA MAO	TPE	51.45	80	85	×	85	105	110	112.5	×	80	110	190

### 56kg級

1	KIN YONGCHOL	PRK	55.85	105	×	105	110	140	×	140	×	140	110	140	250
2	LIN XIYAO	TPE	55.70	105	110	×	110	125	130	×	130	105	130	130	235
3	BATJARGAL H	MGL	56.00	105	110	×	110	130	130	×	130	105	130	130	235

### 60kg級

1	CHUK BYUNG-KWAN	KOR	58.55	127.5	132.5	キ	160	165	キ	132.5	165		297.5	
2	ZHANG YOUI	CHN	59.90	130	135	×	135	160	165	×	165	130	165	295
3	LIN GUAFU	CHN	59.65	130	135	×	135	160	165	×	165	130	160	290
4	LIAO XING ZHOU	TPE	60.00	120	×	120	125	150	×	150	155	120	150	270
5	KIM KUI-SHIK	KOR	59.95	115	120	×	120	150	157.5	×	160	115	150	265
6	N SHIVARAJ	IND	59.90	112.5	×	112.5	117.5	140	145	150	×	112.5	145	257.5
7	SUBHI	IRQ	59.80	112.5	117.5	120	135	145	×	145	120	135	135	255

### 67.5kg級

1	LI JIN HE	CHN	67.40	137.5	145	×	145	172.5	×	172.5	175	145	175	320	
2	IIN SAYGO	PRK	67.40	130	135	×	135	162.5	170	172.5		130	172.5	302.5	
3	BATTULGA D	MGL	67.35	127.5	132.5	×	132.5	150	155	×	155	127.5	150	277.5	
4	N SAMPATH	IND	67.15	115	120	122.5	×	150	155	160	×	120	155	275	
5	WU TSAI FU	TPE	67.25	120	×	120	×	120	152.5	157.5	×	157.5	120	152.5	272.5

### 75kg級

1	LIN WENSHENG	CHN	74.55	142.5	147.5	150	185	192.5	×	192.5	175	150	185	335
2	CHIO BYUNG-CHAN	KOR	74.45	140	145	147.5	180	185	×	185	175	145	180	325
3	ABBAS	IRN	74.90	142.5	147.5	150	172.5	177.5	182.5	×	182.5	147.5	177.5	325
4	ENEBISHI G	MGL	74.30	140	145	147.5	170	175	177.5	182.5	175	147.5	175	322.5
5	P SHARMA	IND	72.45	127.5	132.5	135	167.5	172.5	172.5	172.5	172.5	127.5	172.5	300
6	CHULUUNPUREZ B	MGL	74.55	137.5	142.5	142.5	160	167.5	167.5	167.5	167.5	137.5	160	297.5
7	CHIANG MIN CHENG	TPE	74.55	125	×	125	135	155	165	165	165	125	155	280

## 82.5kg級

順位	氏名	国名	体重	スナッチ			ジャーク			ベスト		トータル	
				1	2	3	1	2	3	スナッチ	ジャーク		
1	LI YUNNAN	CHN	82.45	160	166	AR キ	192.5	200 ×	200 ×	166	AR	192.5	357.5
2	SALEH	IRQ	82.10	155 ×	155	162.5×	182.5	185	195 ×	155	185	340	
3	ALIREZA A	IRN	81.75	140	145 ×	145 ×	170	175	182.5	140	182.5	322.5	
4	ADNAN	IRQ	79.20	135	140	142.5×	165	170	175 ×	140	170	310	
5	CHANG SUNG-SOON	KOR	79.30	135 ×	135	140 ×	170	175 ×	175 ×	135	170	305	
6	KHOSBAYAR TS	MGL	81.95	127.5	132.5	135	152.5	157.5×	157.5	135	157.5	292.5	
7	杉山 崇	JPN	80.80	130	137.5×	137.5×	160	167.5×	167.5×	130	160	290	
8	SU MING-TE	TPE	78.55	122.5×	122.5×	122.5	155	160 ×	160	122.5	160	282.5	

## 90kg級

1	BIM BYUNG-CHAN	KOR	89.05	170	175.5×	175.5×	205	213	AR キ	170	213	AR	382.5
2	YEOM DONG-CHUL	KOR	84.40	155	160 ×	160 ×	195	200 ×	200 ×	155	195	350	
3	ATTAA	IRQ	89.00	155	162.5	165	185 ×	185 ×	185	165	185	350	
4	西川 智之	JPN	89.75	150	152.5×	152.5×	180 ×	180	185 ×	150	180	330	
5	SAEED A	IRN	90.00	135	142.5	147.5×	170	177.5	182.5×	142.5	177.5	320	
6	WANG SHUN FU	TPE	87.75	132.5	137.5×	137.5	172.5	180	182.5×	137.5	180	317.5	
7	MIZEL	IRQ	82.65	120	キ	—	170 ×	170	182.5×	120	170	290	

## 100kg級

1	NAZZR	IRQ	93.55	160	165 ×	165	190	195	200	165	200	365	
2	CHOI DNG-KIL	KOR	98.45	150	155	157.5	200 ×	200 ×	200	157.5	200	357.5	
3	HWHWANG HEE-DONG	KOR	95.00	155 ×	155 ×	155	195 ×	195	202.5×	155	195	350	
4	BABAKS	IRN	99.25	140	150	157.5×	170	180	182.5×	150	180	330	
5	ABDULLAH F	IRN	96.90	150 ×	150	157.5×	175	190 ×	195 ×	150	175	325	
6	KUO CHIN SHEN	TPE	96.75	130	135 ×	135	170	175	180 ×	135	175	310	

## 110kg級

1	CHUN SANG-SUK	KOR	107.50	175	180.5×	180.5AR	210 ×	210	215 ×	180.5AR	210	390 AR	
2	JAHIR	IRQ	109.20	160	165 ×	165 ×	192.5	197.5	202.5×	160	197.5	357.5	
3	富樫 嘉文	JPN	109.40	160	165 ×	165 ×	180 ×	190	195	160	195	355	
4	MOZAFAR A	IRN	103.10	140	150	155 ×	180	192.5	200	150	200	350	
5	FARHAD R	IRN	107.30	135	145 ×	145	170	180	185 ×	145	180	325	
6	LIAO CHIN MING	TPE	106.00	140	150 ×	150 ×	170	182.5×	182.5	140	182.5	322.5	

## +110kg級

1	KIM TAE-HYUN	KOR	128.70	180 ×	180 ×	180	230	AR	235 ×	235 ×	180	230	AR	410 AR
2	ABDULAA	IRQ	113.25	145	152.5	157.5	185	190	197.5	157.5	197.5	355		
3	A GHOREISHI	IRN	119.95	145	152.5	157.5	172.5	180	187.5×	157.5	180	337.5		
4	ABUDUAMIR	IRN	114.15	135	147.5×	147.5	172.5	180	192.5×	147.5	180	327.5		
5	JAWAD	IRQ	110.55	140	145	150	160	175	177.5×	150	160	310		
6	LIU EAI PENFG	TPE	119.65	120	132.5	137.5	160 ×	160	175 ×	137.5	160	297.5		

## 第25回オリンピック大会日本代表選手選考会

# 6名内定！ 砂岡復調の兆し 渡辺10年ぶりの日本記録更新

東京・大田区体育館において、5月9日に行なわれた、第25回オリンピック大会日本代表選手選考会は、IWF指定の国際競技会でオリンピック標準記録を達成した23名の優秀選手の出場が予定されていた。しかし、そのうち1名が体重オーバーで失格。1名が国際競技会出場のため欠場となり、21名のリフターによって熾烈な闘いが繰り広げられ、その様子は広く日本全国にTV放映された。

### <前段> 52~56kg級

#### 池畠チャンスを逃す！

##### <52kg級>

伸び盛りで、どんな記録を出すかどこまで渡辺を脅かすか、今大会での活躍に、もっともミステリアスな期待が持たれていたリフターといつてもよい池畠は、試合の前に初步的な体重オーバー(150g)という、大変なミスをおかしてしまった。本人も在籍の大商大の阪上監督も、取り返しの効かない失敗に嘆いていたが、多くのファンにとっても楽しみを奪われた思いであった。

渡辺は、王者の気迫と力を発揮した。作戦的にも、スナッチでは107.5kgからスタートし、試技毎に2.5kgずつの増量とし、伊禮に付け入るスキを与えないような展開を進め、第3試技で113kgに成功。10年振りに日本記録を更新した。一方、池畠の脱落により、標的が絞りやすくなったり伊禮は、渡辺を脅かすなどという野望は持たず、堅実な試合運びを選び、よく健闘した小野寺の追撃をかわし、自己新記録のトータル235kgで2位を確保した。

渡辺はジャークの第3試技で135.5kgの日本新記録に挑み、難なくクリーンしたものの惜しくも差しで失敗した。

#### 佐久間自己新

##### <56kg級>

今大会には、ベストコンディションで臨み、実力を十分に発揮しなければならないはずの新田が燃え切らなかった。率直にいって実力がないのではなく、エンジンがかかっていないかった。

それに対し、減量に失敗したといわれる佐久間は確かに見た目にも絶好調といえるコンディションにあるとは思えなかったが、堅実な試合運びでトータル255kgの自己新記録をマーク、他のリフターを圧した。また、スナッチの第3試技で121kgの日本新記録に挑戦、52kg級の渡辺に刺激され続いて日本新記誕生かと期待する、欲張りなファンの眼差しを浴びたが、引き切れず失敗した。

あるいはの注目のあったベテラン原は、スナッチ110kgの勝負どころをクリアできず、冴えない新田に、ジャークで逆転できるチャンスを掴めず3位となり、完全に圈外に去ってしまった。

### <後段> 60kg級以上

#### 岩田(1日姓村木)、粘る

##### <60kg級>

記録掲示板に村木の名がなく、一瞬、ついに不調のまま棄権してしまったかと思ったが、洋介の名がありその前は岩田となっていた。結婚して姓が変わったのだ。そして、名前が変わると共に、不調からもやゝ脱しかかってきた感じのトータル272.5kgと、久し振りの270kg台に漕ぎつけ、他を圧したものゝ青息吐息、ジャークの第3試技は棄権してしまった。

このクラスは、昨年好調であった市場が、岩田と入れ替わった感じで、まったくいいところなくトップ争いから遠ざかってしまった。

かわって佐藤は、よく健闘しトータル265kgの自己新記録をマークし2位に食い込んだ。しかし佐藤は、現状で自信を持つだけでスナッチ125kg前足の踏み込みと、胸の突っ込みのよいジャークスプリットを行なえば150kgはいける印象であった。

#### 鶴見逆転ジャーク

##### <67.5kg級>

堀越がジュニア世界選手権大会に出場のため、今大会は不参加となり、興味が多少薄れそうであった。しかし、鶴見と西澤の両者は互いに激しく譲らず面白い試合となった。結局、鶴見が得意のジャークで170kgの自己新記録を挙げ、トータル292.5kg、体重差で西澤を下した。それにしても

鶴見はスナッチのリズムを身につけ130kg台に乗せるだけで、トータル300kg級リフターになれる潜在力をを見せた。

## 水野パワーアップ

### <75kg>

水野はスナッチ、ジャーク共に失敗なしのパーカーフェクトゲームで、トータル322.5kgのベスト記録をマーク。ジャークの特別試技で185kgの日本新記録に挑戦したが、差しで惜しくも失敗した。とはいっても、全競技終了後の挑戦で、からだが冷えてしまつてからの挑戦であった。実力的には、さらに高まっている様子が肌で感じられた。

平仲は、かなり体調を戻してきた印象でよく健闘し、スナッチ140kgを挙げた後、ジャークでは175kgに挑んだが、エネルギーを使い果し、ジャークディップでタイミングを狂わせて失敗してしまった。

## 砂岡健在！

### <82.5kg級>

今回はスナッチ150kg、ジャーク192.5kg、トータル342.5kgを挙げ、代表の座を確保するのに十分な記録を出した砂岡であったが、この記録を見た限りにおいては、砂岡復調いまだならず、と思われるかも知れない。しかし、実際に見ると、砂岡のタイミングはバラバラであり、長い眠りから醒めたばかりの、まだ本調子とはいえないが、明らかに回復途上の力強さを感じられる、うれしい復調の匂いがするものであった。

### <90kg級>

今年のアジア選手権大会で、トータル330kgの標準記録タイに追いつき、選考会に挑戦できた西川は、積極的に記録を上積みしようとして、果敢に自己記録更新を試み、ジャークでは185kgに挑んだが全力を尽くしながらも突き切れず惜しくも差しで失敗した。

## 西本急上昇！

### <100kg級>

滅多にない、信じがたい向上ぶりを見せたのがこのクラスの西本であった。ほぼベスト並の記録からスタートして、しか

もパーカーフェクトの上にジャークの特別試技で205kg、トータルで自己のベストを17.5kgも上回る365kgの日本新記録を樹立。今大会では衝撃的活躍を見せつけ、一気に代表有力者に浮上した。

### <110kg級>

富樫もチャンスを掴もうと積極的に記録のアップを目指したが、スナッチ165kgを頭上に挙げながら、立ちで惜しくも落としてしまい、ジャークのラストの試技で200kgに挑戦したが、差しでバーベルに押しつぶされ、体が跳ね飛ばされるような感じで失敗した。

## 渡辺、伊禮、佐久間、水野、砂岡、西本

選考競技会終了後、代表選手選考会議が行なわれ、慎重に検討した結果、6名の選手が“内定”した。

52kg級	渡辺 博	伊禮 淳
56kg級	佐久間勝久	
75kg級	水野 英郎	
82.5kg級	砂岡 良治	
100kg級	西本 宣充	

いずれも“内定”というより事実上決定といつてもよい、代表に値する内容・結果を出した選手ばかりである。残る4名の代表は、この大会の後に行なわれる第18回ジュニア世界選手権大会出場選手の記録によって、誰が選ばれるか不確定な部分がある。



応援合戦で賑わいだ太田区立体育館。



52kg級伊禮、最高の出来で2位を確保、代表となつた。



気迫のこもった試技でスナッチ113kgの日本新記録を樹立、代表となつた52kg級の渡辺。



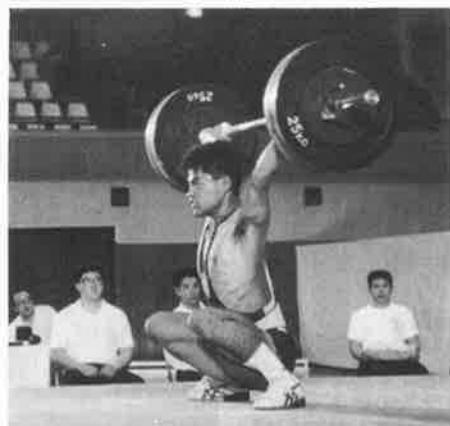
堅実な試技運びで、うまくまとめ代表となつた56kg級佐久間。スナッチ117.5kg成功。



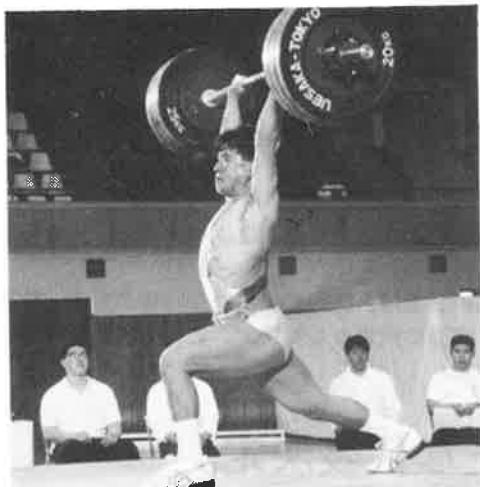
体力と精神が咬み合わない印象の56kg級新田。前方に体とバーが流れて142.5kgを失敗。



体力の衰えを隠せないながら、全力を尽くし代表の座を賭けてジャーク150kgを挙上する60kg級岩田。



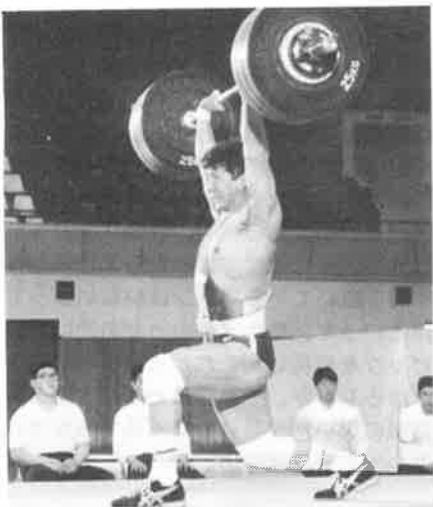
スナッチ巧者の60kg級佐藤。125kgに挑戦僅かに後方にバーが流れて惜しくも失敗



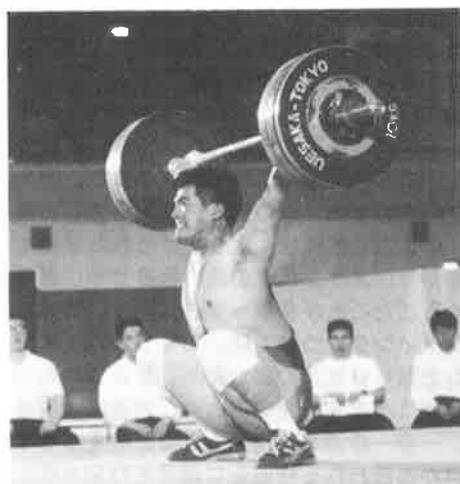
ジャーク170kgの自己新で優勝を決めた67.5kg級鶴見。しかし、代表は確定しなかった。



パーフェクトでトータル322.5kgをマーク。  
代表の座を固めた75kg級水野。



力感で復調の兆しを見せた82.5kg級砂岡。ジャーク192.5kgの挑戦。やや胸が落ち前差し気味が気になる。



もう一步及ばなかったがよく健闘した90kg級西川。スナッチ150kgに挑む。



ジャーク205kgを挙げて会場を盛り上げた100kg級西本。



ジャーク200kgに失敗。バーに跳ね飛ばされた格好の110kg級富樫。

# 残りの4名決定、 堀越滑り込み！

5月16日からブルガリアで開催の第18回ジュニア世界選手権大会の出場者中、67.5kg級の堀越がトータル292.5kgを挙げ、先の最終選考会で1位・2位を分けた鶴見と西澤と同記録で並び、強化委員会で事前に決められた「同記録の

場合は若手を派遣する」に従い、堀越が代表の座を獲得した。

他の3名は、56kg級新田、60kg級の岩田・佐藤が、順当に代表として決定。これで10名全員が決定した。

## 困難な選考から、公正な代表決定。

今回のオリンピック代表決定ほど困難を極めた選考は、かつてなかったであろう。IWFFによって定められた国際競技会で、オリンピック出場標準記録を突破した選手のみの中から、オリンピック代表を選ばなければならぬということは、口でいうほど簡単ではなかった。

陸上競技のマラソンの代表選考のもめごとなどは、マスコミに大きく取り上げられた筆頭であったが、レスリングその他の種目でも、選考をめぐるごたごたが多かった。しかし、ウエイトリフティングについては、もちろん、初めて経験した難しい状況であったが、ひとつひとつ問題を解こうとするかのごとく、慎重に検討を重ね、一步一步進め、傍から見ると考えすぎではないかと思われる程厳正な選考を行なった。

代表の座を獲得せんと、虎視眈眈と狙ってき

たトップクラスのリフター達にとっても、これはかなりのプレッシャーになったであろう。何しろ選ばれるためには、一発勝負はありえないばかりか、ことに回復力の低下した“年寄リフター”にとっては、非常に厳しいコンディショニングを強いられたことであろう。もちろん、若いリフターといえども、実力差が今回はそれほど大きくなかったこともあり、大変であっただろう。

選ぶ側も、選ばれる側も、共に“苦労”しただけに、代表選手に対しては心からの祝福が与えられ、不満を感じているファンはいないようであった。かといって、これで終わったのではない、オリンピックを目指し、これから頑張ってもらわなければならないが、そう気負わずに本番の晴舞台で、気楽に思い切り楽しんでくるつもりで、のびのびとやってきて欲しい。

## 日本代表チーム選手のプロフィール

①氏名 ②体重階級 ③身長 ④生年月日 ⑤出身地 ⑥出身校 ⑦所属 ⑧主な成績



①渡辺 博 ②52kg級  
③159cm ④1967.8.21  
⑤山梨県 ⑥法政大学  
⑦富士急行(株) ⑧1991年世界選手権6位、  
1991年全日本選手権1位。



①伊禮 淳 ②52kg級  
③161cm ④1967.1.3  
⑤沖縄県 ⑥九州共立大學  
⑦香川県スポーツ振興財団 ⑧1991年世界選手権7位、1991年全日本選手権2位。



①佐久間勝彦 ②56kg級  
③161cm ④1970.1.6  
⑤福島県 ⑥日本大学  
⑦ゼビオ(株) ⑧1991年  
世界選手権5位、1991  
年全日本選手権2位。



①新田勝久 ②56kg級  
③159cm ④1968.4.25  
⑤広島県 ⑥法政大学  
⑦自衛隊体育学校  
⑧1991年世界選手権7位  
1991年全日本選手権1  
位。



①岩田洋介 ②60kg級  
③163cm ④1960.1.19  
⑤岡山県 ⑥日本体育  
大学 ⑦水島工業高  
校教員 ⑧ロス五輪  
5位、ソウル五輪5  
位、1991年全日本選  
手権1位。



①佐藤和夫 ②60kg級  
③165cm ④1970.1.21  
⑤宮城県 ⑥日本体育  
大学 ⑦宮城県体育協  
会 ⑧1991年アジア選  
手権3位。



①堀越典昭 ②67.5kg級  
③158cm ④1972.9.5  
⑤栃木県 ⑥小山高校  
⑦日本体育大学2年  
⑧1992年Jr世界選手権  
6位。



①水野英郎 ②75kg級  
③169cm ④1970.6.22  
⑤千葉県 ⑥津田沼高校  
⑦日本大学4年  
⑧1991年アジア選手権  
4位、1991年国民体  
育大会1位。



①砂岡良治 ②82.5kg級  
③171cm ④1962.2.18  
⑤栃木県 ⑥日本体育大  
学 ⑦ユニデン(株)  
⑧ロス五輪3位、ソウル  
五輪6位、1991年全日  
本選手権1位。



①西本宣充 ②100kg級  
③180cm ④1968.3.16  
⑤鳥取県 ⑥日本体育  
大学 ⑦布勢総合運  
動公園 ⑧1991年ア  
ジア選手権4位、1991  
年国民体育大会1位。

## 第25回オリンピック大会日本代表選手選考会

● 平成4年5月9日 ● 大田区体育馆

### 52kg級

順位	氏名	県名	所属	生年	体重	スナッチ			ジャーク			ベスト		トータル
						1	2	3	1	2	3	スナッチ	ジャーク	
1	瀧邊 博	山梨	富士急行	1967	51.30	107.5	110	113 JR	125	130	135.5×	113 JR	130	242.5
2	伊禮 淳	香川	神戸製鋼	1967	51.45	102.5	105	107.5	125	127.5	130 ×	107.5	127.5	235
3	小野寺浩児	宮城	日体大	1970	51.90	97.5	100	102.5	125	135 ×	135 ×	102.5	125	227.5
4	豊田 広和	埼玉	自衛隊体学	1964	51.60	102.5	105 ×	105 ×	120 ×	120	125 ×	102.5	120	222.5

### 56kg級

1 佐久間勝彦	福島	ゼビオ(株)	1970	55.70	115	117.5	121 ×	132.5	137.5	140 ×	117.5	137.5	255
2 新田 勝久	埼玉	自衛隊体学	1968	55.40	107.5 ×	107.5	112.5 ×	137.5	142.5 ×	142.5 ×	107.5	137.5	245
3 原 徹	群馬	前橋育英高	1962	55.80	105	110 ×	110 ×	137.5	142.5 ×	142.5 ×	105	137.5	242.5

### 60kg級

1 岩田 洋介	岡山	水島工高	1960	59.60	120 ×	120	122.5	147.5	150	キ	122.5	150	272.5
2 佐藤 和夫	宮城	休育協会	1970	59.95	120 ×	120	125 ×	145 ×	145 ×	145	120	145	265
3 市場 孝士	埼玉	自衛隊体学	1960	59.40	115	117.5 ×	120 ×	140	150 ×	150 ×	115	140	255
4 森下 良平	大阪	阪信金庫	1968	59.55	115	120 ×	120 ×	137.5	142.5 ×	142.5 ×	115	137.5	252.5

### 67.5kg級

1 鶴見 英司	山形	鶴岡西高	1967	67.20	122.5 ×	122.5	125 ×	165 ×	170	172.5 ×	122.5	170	292.5
2 西澤 勝美	埼玉	自衛隊体学	1966	67.25	127.5	130 ×	130 ×	160	165	167.5 ×	127.5	165	292.5

### 75kg級

1 水野 英郎	千葉	日本大	1970	74.15	135	140	142.5	170	175	180	142.5	180	322.5
2 平仲 康	埼玉	自衛隊体学	1962	74.35	137.5	140	142.5 ×	170	175 ×	175 ×	140	170	310

★ 水野 英郎 ジャーク 185 ×

### 82.5kg級

1 砂岡 良治	千葉	ユニデン	1962	81.80	145 ×	145	150	187.5	192.5	200 ×	150	192.5	342.5
---------	----	------	------	-------	-------	-----	-----	-------	-------	-------	-----	-------	-------

### 90kg級

1 西川 智之	京都	体育協会	1969	89.80	145	150 ×	150	180	185 ×	185 ×	150	180	330
---------	----	------	------	-------	-----	-------	-----	-----	-------	-------	-----	-----	-----

### 100kg級

1 西本 宣充	鳥取	布施運動公	1968	97.45	155	160	162.5 JR	195	200 JR	202.5 JR	162.5 JR	202.5 JR	365 JR
---------	----	-------	------	-------	-----	-----	----------	-----	--------	----------	----------	----------	--------

★ 西本 宣充 ジャーク 205 JR

### 110kg級

1 富樫 茂文	山形	酒田北高	1965	108.75	160 ×	160	165 ×	190 ×	190	200 ×	160	190	350
---------	----	------	------	--------	-------	-----	-------	-------	-----	-------	-----	-----	-----

## 第38回全日本学生個人選手権大会

# 低調、大会新ゼロ！

親子リフター秋田(52)影山(75)優勝！

兵庫県尼崎市記念公園総合体育館に於いて5月15日から17日にわたり開催された今大会は、5月9日のオリンピック選考会、今大会と同時期に行なわれたジュニア世界選手権大会等の関係で、大学トップクラスのリフター達の欠場と調整不良により、好記録の少ない大会となってしまった。

### <52kg級>

早稲田大の秋田、中央大の佐々木の一騎打ちの争いになり、両者共に成功率がスナッチ・ジャークいずれも1本ずつという低調さで互いに記録的には満足出来ない内容であったが、ジャークで力量の上回る秋田が、第1試技の115kgを挙上した時点で初優勝が確定した。

### <56kg級>

オリンピック選考会に出たばかりで、しかも、予選落ちしていさか精神的に乗れない状態の河井(法政大)と池畠(大商大)が出場。同じく予選落ちの小野寺(日体大)は欠場ということで、最初から波乱含みであった。試合は混沌とした闘いになり、出場した2人の4年生リフターの不調の隙をついて2年生の塚本(法政大)が浮上、トータル235kg、体重差で昨年優勝の池畠を押さえ初優勝を遂げた。この勝利は今後の飛躍のきっかけとなりそう。

### <60kg級>

このクラスは、1年生の宮路(大商大)に敗けてなるものかと、虎視眈眈と待ち構える感の上級生達の包囲網を、宮路は破れるかが焦点であった。しかし、その包囲網は早くもスナッチで破れ、宮地の好敵手と目される上級生達は失格2名、1本のみ成功2名といった生えないと、スナッチ得意の宮路は大会タイの115kgを挙上、他を7.5kg以上引き離しジャークはスナッチに対し控え目な数字ながら130kgを挙げ、トータル245kgにまとめ、体重差逆転を狙い137.5kgに挑んで失敗した鈴木(中央大)を振り切って初優勝を遂げた。

### <67.5kg級>

このクラスはトータル260kg前後の力量を有するリフターがひしめき、誰が優勝するかまったく予測できない混戦であったが、柳沢(日体大)が西川(大商大)を体重差で押さえ、トータル260kgで優勝した。

あまりにも混戦であったため、各選手共試技作戦にはかなり頭を使わざるを得なかつたであろう。結果論になってしまうが、一昨年に続き2度目の優勝を目指す三宅(日体大)はスナッチ3本成功、117.5kg挙上の順調な滑り出しでトップに立ったが、ジャークの1本目の140kgに失敗、堅実策で同重量を再度試み、成功したもののが残る試技は1本、145kgにいくべきか147.5kgにいくべきか、おおいに迷つ

たところであろう。結局、これを挙げればまことに優勝は堅いだろうと判断したようで、冒険気味の147.5kgに増量したが失敗。3位に甘んじることとなり、よくあることだが、145kgでも優勝の可能性は十分にあったのにといった悔いが残った。

### <75kg級>

急速に力をつけてきたとみられる森田(日本大)が、優勝争いに加わるかと思われる、スナッチ120kgからのスタートを切ったものの、3試技共失敗し早くも脱落。勝負はほぼ影山(立命館)と坂本(中央大)の両者の争いとなり、成功試技5本でトータル275kgをマークした影山が、2本のみ成功でトータル270kgに終わった坂本の追撃をかわして優勝した。

### <82.5kg級>

優勝候補筆頭が自滅というのは、もっともつまらないケースであるが、森川(大商大)は今回の最有力者でありながらスナッチで3本共失敗し失格してしまった。

優勝争いは河内(九共大)、会沢(法政大)、村田(明治大)の接戦となり、河内がジャーク167.5kgを挙上し、トータル287.5kgで会沢に並び、体重差逆転優勝を遂げ、1位・2位を4年生同士で占めた。しかし、トータル285kgで3位になった村田にも、もう1本成功すれば優勝の可能性が十分にあったが、3年生という精神的な甘えの差で勝てなかつたような印象もあった。

### <90kg級>

中国人留学生楊(大商大)の一人舞台となりスナッチで162.5kgの大学新記録に挑戦したが失敗。トータル310kgの、楊としては平凡な記録で2連勝した。

### <100kg級>

高橋・諸橋の日本大同士と中村・小黒(中央大)による優勝争いが演じられ、実力的には一段上回る4年生の高橋の優勝が有力であったが、作戦的なミスをおかし、完全に油断による隙をつかれ、3年生の諸橋に体重差で優勝を奪われてしまった。相手を甘く見ての苦渋とはいえ、諸橋の健闘を讃えたい。

### <110kg級>

このクラスは、浅田(法政大)がトータル315kgで2位の大島(中央大)に27.5kgの差をつけて優勝を遂げた。

### <+110kg級>

内容的には、接戦なし、目立つ記録なし、ただ柳田(明治大)は、黙々と堅実に試技をクリアし、他の付け入る隙を与えず、優勝をものにしたという印象であった。

## 第38回全日本学生個人選手権大会

● 平成4年5月15日～5月17日 ● 尼崎市記念公園総合体育会館

### 52kg級

順位	氏名	所属	学年	体重	スナッチ			ジャーク			ベスト		トータル
					1	2	3	1	2	3	スナッチ	ジャーク	
1	秋田 太郎	早稲田大	3	51.85	90 ×	90	95 ×	115	120 ×	120 ×	90	115	205
2	佐々木 徹	中央大	2	51.60	92.5	97.5 ×	97.5 ×	110	112.5 ×	112.5 ×	92.5	110	202.5
3	今吉 正憲	福岡大	2	51.20	85	90 ×	90 ×	110	115 ×	115 ×	85	110	195
4	若杉 力也	大商大	3	51.55	82.5 ×	85	87.5 ×	105	107.5	110 ×	85	107.5	192.5
5	松尾 光一	大商大	2	51.85	85	87.5	90 ×	100	102.5	105	87.5	105	192.5
6	田頭 弘毅	法政大	1	51.85	75	77.5	82.5	95	100	102.5	82.5	102.5	185
7	後藤 啓彦	中央大	1	51.70	75 ×	75	77.5 ×	95	100	102.5 ×	75	100	175

### 56kg級

順位	氏名	所属	学年	体重	スナッチ			ジャーク			ベスト		トータル
					1	2	3	1	2	3	スナッチ	ジャーク	
1	塙木 誠進	法政大	2	55.45	102.5 ×	102.5 ×	102.5	125	130	132.5	102.5	132.5	235
2	池畠 大	大商大	4	55.60	100	105 ×	105 ×	130	132.5 ×	135	100	135	235
3	岩瀬 順信	日体大	4	55.90	97.5	102.5 ×	102.5	117.5	125	130	102.5	130	232.5
4	河井 健二	法政大	4	54.55	100 ×	100	105	120 ×	120 ×	125	105	125	230
5	早川 英明	明治大	3	55.95	90	95	100 ×	120	125	130 ×	95	125	220
6	桜旗 雅之	大商大	2	55.95	90	92.5	95	115	120	122.5 ×	95	120	215
7	育篠 和己	明治大	1	55.65	85	90	92.5 ×	120	125 ×	125 ×	90	120	210
8	吉澤英太郎	福岡大	1	55.25	80 ×	80	87.5	100	105	110 ×	87.5	105	192.5

### 60kg級

順位	氏名	所属	学年	体重	スナッチ			ジャーク			ベスト		トータル
					1	2	3	1	2	3	スナッチ	ジャーク	
1	宮路 山久	大商大	1	59.95	110	115 ×	115 △	125	130	132.5 ×	115 △	130	245
2	鈴木 隆	中央大	3	59.60	107.5 ×	107.5 ×	107.5	132.5 ×	132.5	137.5 ×	107.5	132.5	240
3	永田 真樹	中央大	3	59.50	102.5	107.5 ×	107.5 ×	125 ×	125	130 ×	102.5	125	227.5
4	村田 明文	法政大	2	59.20	95 ×	95	100 ×	122.5	127.5	132.5 ×	95	121.5	222.5
5	高橋 複樹	法政大	2	59.75	95	100 ×	100 ×	122.5	127.5 ×	127.5	95	127.5	222.5
6	岩佐 正広	日体大	1	59.80	95	100 ×	100	122.5 ×	122.5	127.5 ×	100	122.5	222.5
7	花城 冬樹	関西大	4	59.75	90	95	100 ×	120	125	130 ×	95	125	220
8	田所 千典	法政大	2	58.80	80 ×	80	85	110	115	122.5 ×	85	115	200
9	村田 和也	京産大	3	58.50	90 ×	90	92.5 ×	117.5 ×	117.5	122.5 ×	90	117.5	207.5
10	新村 厚樹	明治大	1	59.95	92.5	100 ×	100 ×	115	120 ×	120 ×	92.5	115	207.5

### 67.5kg級

順位	氏名	所属	学年	体重	スナッチ			ジャーク			ベスト		トータル
					1	2	3	1	2	3	スナッチ	ジャーク	
1	柳沢 俊雄	日体大	4	67.15	100	105 ×	105 ×	140	147.5	150	100	150	260
2	西川 良司	大商大	3	67.35	110 ×	110	115	140	145	147.5 ×	115	145	260
3	三宅 敦志	日体大	4	67.25	110	115	117.5	140 ×	140	147.5 ×	117.5	140	257.5
4	小松 博志	明治大	3	65.90	110	115	120 ×	140 ×	140	147.5 ×	115	140	255
5	高永 佳孝	日体大	3	67.15	107.5	112.5	117.5 ×	140	150 ×	150 ×	112.5	140	252.5
6	村岡 啓勝	昭和大	2	67.50	110 ×	112.5 ×	112.5	130	137.5 ×	140	112.5	140	252.5
7	大友 卓也	法政大	4	67.30	115	120 ×	120 ×	135	142.5 ×	142.5 ×	115	135	250
8	大津 行範	法政大	2	66.35	110 ×	110	117.5 ×	135	140 ×	140 ×	110	135	245
9	渡辺 良男	法政大	2	67.15	102.5 ×	102.5	107.5 ×	127.5	132.5	137.5 ×	102.5	132.5	235
10	梶原 誠	日体大	1	64.00	100	105 ×	105	125	130 ×	130 ×	105	125	230

### 75kg級

順位	氏名	所属	学年	体重	スナッチ			ジャーク			ベスト		トータル
					1	2	3	1	2	3	スナッチ	ジャーク	
1	影山 博文	立命館	4	73.45	115	120	122.5	150	152.5	155 ×	122.5	152.5	272.5
2	坂本 和仁	中央大	4	74.15	120 ×	120	125 ×	150 ×	150	157.5 ×	120	150	270
3	森脇 一博	法政大	3	74.45	115 ×	115 ×	115	145	150	152.5 ×	115	150	265
4	森田 稔哉	早稲田大	4	72.65	100 ×	110	110	150	155 ×	155 ×	110	150	260
5	丸木 肇	日体大	3	73.80	115	120	125 ×	135	140	145 ×	120	140	260
6	浜本 宏一	中央大	2	73.50	110	115 ×	115	140 ×	140	145 ×	115	140	255
7	佐野 和夫	法政大	4	74.25	105	110	112.5 ×	140 ×	140	145 ×	110	145	255
8	植松 貴志	九共大	2	74.95	110	115 ×	117.5 ×	140	145 ×	145 ×	110	145	255
9	島田 秀仁	法政大	3	73.80	107.5 ×	107.5	112.5	135	140	142.5 ×	112.5	140	252.5
10	飼野 和彦	中央大	4	74.40	107.5 ×	107.5	112.5 ×	140	145	150 ×	107.5	145	252.5

## 82.5kg級

順位	氏名	所属	学年	体重	スナッチ			ジャーク			ベスト スナッチ+ジャーク	トータル	
					1	2	3	1	2	3			
1	河内 正樹	九大大	4	79.95	120	125 ×	125 ×	160	167.5	172.5×	120	167.5	287.5
2	会沢 豊	法政大	4	82.35	127.5	132.5×	132.5×	155	160	162.5×	127.5	160	287.5
3	村田 和謙	明治大	3	82.50	130	135 ×	135 ×	155	160 ×	160 ×	130	155	295
4	和垣 雅一	福島大	3	79.90	120	125	127.5×	140	150 ×	150	125	150	275
5	安井 盾	明治大	1	79.00	120	125 ×	125 ×	150 ×	150	157.5×	120	150	270
6	辻 良太	明治大	4	81.60	112.5	117.5	120 ×	140	145	150 ×	117.5	145	262.5
7	藤沢 和隆	大商大	2	82.50	110	115 ×	115 ×	142.5	147.5	150 ×	110	147.5	257.5
8	吉本 直也	中央大	4	77.90	115	120 ×	120 ×	140	145 ×	145 ×	115	140	255
9	堂本 典孝	立命館	2	81.70	110 ×	110	117.5×	140	145	147.5×	110	145	255
10	花立 敏行	日体大	3	78.55	105	110	115 ×	135	140	145 ×	110	140	250

## 90kg級

1	楊 波	大商大	3	88.30	140	150	162.5×	160	170 ×	170 ×	150	160	310
2	未廣 孝治	神院大	4	86.30	130 ×	130 ×	132.5	155	160 ×	160	132.5	160	292.5
3	伊藤 孝行	中央大	3	89.50	120 ×	120	125	155	160 ×	160	125	160	295
4	中村 哲	中央大	4	87.05	120 ×	120 ×	122.5	155	160	165 ×	122.5	160	282.5
5	菱沼 知行	法政大	3	82.60	120 ×	120	125	150	155	160 ×	125	155	280
6	金城 進	法政大	3	84.45	115	120 ×	120	140	145	150 ×	120	145	265
7	加川健太郎	明治大	2	88.40	115	122.5×	122.5×	145	150	ヰ	115	150	265
8	村田 潤治	大商大	2	84.95	110	115	117.5	145 ×	145	150 ×	117.5	145	262.5
9	中川 卓	日体大	2	89.90	100	110 ×	110	130 ×	130	137.5×	110	130	240

## 100kg級

1	諸島 弘樹	日本大	3	98.55	120	125 ×	125	162.5	167.5	175	125	175	300
2	高橋 明	日本大	4	99.25	130	137.5×	137.5×	170 △	180 ×	182.5×	130	170 △	300
3	小黒 直樹	中央大	3	97.55	125	130	135 ×	160	165	170 ×	130	165	295
4	山口 誠敏	大商大	4	92.00	125 ×	125	130 ×	155	160	162.5×	125	160	285
5	兼島 博	明治大	4	94.50	120	125	△ 125	160 ×	160	167.5×	125	160	285
6	高嶺 直	法政大	3	92.50	120	125 ×	125 ×	152.5×	152.5	155 ×	120	152.5	272.5
7	山本 豊典	大商大	2	91.75	105 ×	110	112.5	135	140	142.5×	112.5	140	252.5
8	後藤宏一郎	大商大	3	98.90	105	110	112.5×	137.5	142.5×	142.5	110	142.5	252.5
9	赤塚 昌弘	関西大	3	90.20	105 ×	105	112.5×	127.5	132.5	135 ×	105	132.5	237.5
10	皆川 勇洋	早稲田大	4	98.65	100 ×	100	105	130 ×	130	135	100	135	235

## 110kg級

1	浅田 浩伸	法政大	4	104.95	135	140 ×	140	170	175	182.5×	140	175	315
2	大嶋 学	中央大	2	106.80	125 ×	125 ×	125	160	162.5×	162.5	125	162.5	287.5
3	若杉 孝一	法政大	3	100.75	120 ×	120	125 ×	155	160	167.5×	120	160	280
4	加藤 大明	法政大	2	102.30	112.5×	112.5	120	147.5	152.5	160 ×	120	152.5	272.5
5	小平 益宏	日体大	3	103.75	110	115	120 ×	145	150	155	115	155	270
6	岩脇 要介	早稲田大	4	100.65	100	105 ×	105 ×	130	137.5×	137.5×	100	130	230
7	野村 潤也	京産大	4	105.50	100 ×	100	105	120	125	130 ×	105	125	230

## +110kg級

1	柳田 真哉	明治大	3	110.10	130	135	137.5×	160	165	167.5×	135	165	300
2	小山 隆次	日体大	3	120.75	130 ×	130	135 ×	150	155 ×	155	130	155	295
3	坂口 雄志	中京大	1	111.45	110	115	120 ×	140	145 ×	145	115	145	260
4	石井 伸幸	日体大	1	110.10	105	110 ×	110	130 ×	130	135	110	135	245

## 第4回全日本女子学生選手権大会

### 翁長大会新!

第4回全日本女子学生選手権大会は、兵庫県尼崎市記念公園総合体育館に於いて、5月15日から17日にわたり開催された、全日本学生個人選手権大会開催中に同会場で行なわれた。

大会は、あいにく女子世界選手権大会開催と時期が重なってしまい、女子学生の主力の多くが不在となり、出場者僅か5名の淋しい大会となってしまった。

競技は、4名出場の56kg級と1名のみ出場の75kg級の2階級が行なわれたが、全出場者中4名が日体大生ということで、日体大の女子記録会の様相であった。しかし、日体大勢の中で、立命館大の東條が孤軍奮闘し56kg級で優勝したことは、競技会らしさをちょびり盛り上げた格好となつた。

#### <56kg級>

出場者4名のいずれもが52~53kg台の範囲で計量をパスしており、たいした減量もせずに、52kg級と56kg級に分かれて“優勝争い”

が行なえたはずであったが、優勝にこだわらず、競技を面白くするために、4名が56kg級に集まってしまったようであった。

競技の結果は、東條和恵(立命館大)が、園部和枝(日体大)と大接戦を演じ、両者共に失敗なしのパーフェクトで、トータル127.5kgを挙げ、これまた同体重ながら東條が優勝者となつた。3位争いも同様に激しく競り合いがみられ、余田直美と長谷川倫子の、日体大同士がトータル110kgの同記録を挙げ、体重差で余田が3位となつた。

このクラスの合計試技数24のうち、失敗1本のみ、成功率約96%という高率の成功試技は珍しいことであった。

#### <75kg級>

1人出場の翁長真由美(日体大)が、スナッチ72.5kg、ジャーク100kg、トータル172.5kgの、いずれも大会新記録を樹立。ジャーク100kg台の女子リフターがまた1人誕生した。

## 第4回全日本女子学生選手権大会

● 平成4年5月15日~5月17日 ● 尼崎市記念公園総合体育館

### 56kg級

順位	氏名	所属	学年	体重	スナッチ			ジャーク			ベスト		トータル
					1	2	3	1	2	3	スナッチ	ジャーク	
1	東條 和恵	立命館	1	52.90	52.5	55	57.5	62.5	67.5	70	57.5	70	127.5
2	園部 和枝	日体大	1	52.90	52.5	55	57.5	65	67.5	70	57.5	70	127.5
3	余田 直美	日体大	1	52.95	40	47.5	50	55	60	62.5×	50	60	110
4	長谷川倫子	日体大	4	53.80	40	45	47.5	55	60	62.5	47.5	62.5	110

### 75kg級

1 翁長真由美	日体大	2	70.65	72.5○	77.5×	77.5×	95 ○	100 ○	102.5×	72.5○	100 ○	172.5○
---------	-----	---	-------	-------	-------	-------	------	-------	--------	-------	-------	--------

## 第18回ジュニア世界選手権大会

# 堀越・佐野復調、橘失格！

ジュニアのリフターにとって、最後のバルセロナオリンピック大会出場のチャンスとなる、第18回ジュニア世界選手権大会は、ブルガリアのバルナで、第6回女子世界選手権大会と同じ開催地で、1992年5月16日から24日まで9日間にわたり開催された。

バルナは黒海の畔の観光都市として知られ夏になるとヨーロッパ中からバカンスを楽しむ人々が集まる自然の美しい町である。しかし、食事や生活面で、やや日本チームにとって馴染めない部分があり、コンディショニングにいくらか気を使わされた感があった。

### <52kg級>

トルコの新鋭MUTLU HALILがスナッチ112.5kgを挙げ、体重差でトップに立ったが、中国のLIU WEIGUOがジャークで追い上げ142.5kgを挙上、トータル255kgで昨年の優勝のLIN QISHENGに続き、中国選手が連続して優勝者となつた。

吉原(明治大)は、スナッチで90kgを挙上した後、ジャークでは長期にわたる減量がたたつてか、115kgを3度失敗して失格した。

### <56kg級>

昨年度優勝者の中国のCHEN TAOはブルガリアのMINTCHEV SEVDALINとPETROV PETARのふたりを向こうにまわし、激しく競り合つたが地元の利があつてか、ブルガリアのMINCHEVにトータル267.5kgの、同記録体重差で2連覇を阻まれた。

上位入賞が期待されていた伊森(日本大)はスナッチで102.5kgからスタートし、1本成功のみに甘んじた後、ジャークで135kgからスタートして失敗。重量を一気に142.5kgに上げ第2・第3試技に、バルセロナ代表の可能性を賭けて挑戦、クリーンしたものとの差しで失敗し失格、野望は実らなかつた。

具志堅(日本大)は、堅実な試合運びでトータル225kgと自己ベストにやや及ばないものの7位に入賞した。

### <60kg級>

“ポケット ヘラクレス” SULEYMANOGLU NAIMUが、ブルガリアから帰つて以来のトルコのレベルのアップは目覚ましい。52kg級で2位になつたMUTLU HALILに続き、VAGCI NUCAHITが競技終了の最終試技で逆転優勝を賭けて

160kgのジャークに挑んで失敗したが、このクラスでもトルコは表彰台の3位に立つた。

優勝は、地元ブルガリアのTCHANOV ILIANが、パーカクト試技で、トータル285kgを挙げ、中国のLI CHUANGHUANを押さえて手中に収めた。

ベストに近い記録が出せれば、オリンピック代表の可能性十分な橘(日本大)に対する期待は大きかった。しかし、残念ながらその当時は完全にはずれてしまった。その予感はスナッチでベスト記録より5kgも低い、115kgを第2、第3試技で取れなかつた時点にあつた。ジャークは、まだ未征服の155kgを挙げなければならなくなつてしまつた(選考方法で先の選考会の佐藤のトータル265kgに、並んだ場合はジュニア選手を代表として優先する。があつた)。そして、夢を賭けた155kgは差しからの足の戻しの段階で、はかなくも崩れ去つてしまつた。

### <67.5kg級>

このクラスは、中国と韓国のアジア勢が上位を独占してしまつた。昨年度2位のブルガリアのZELIAZKOV PLAMENの、優勝のチャンスとも思われるところであつたが、中国の昨年の優勝者XIA XIAOLINに続き、YANG LEIがトータル317.5kgで中国選手の連続優勝を果たした。内容はスナッチジャーク共に1本ずつ成功という思わしくないものであつたが、それでも優勝してしまつた。

低調であった堀越がようやく戻つてきた。国際試合の強さに定評のある堀越が、スナッチ、ジャーク共に2本ずつ確保、ほぼ現状の体調に見合つた記録をきっちり決め、トータル292.5kgにまとめ、選考会の鶴見の記録と同記録に並び、ジュニア選手優先のルールに従い、代表の座を確定した。

### <75kg級>

CIS(旧ソ連)は、国家的新体制に変わつてから、より一層軽量級の弱体化の兆しが感じられ、67.5kg級まで3人出場した中で1人も表彰台に立つことができなかつた。しかし75kg級でようやくVSTAVSKY EVGENIが、トータル332.5kgを挙げ、ブルガリアのIVANOV KRASIMIRと2.5kgの差で優勝した。

全日本ジュニアでトータル282.5kgを挙げて代表となつた鳥沢は、本大会が初の大舞台

出場であり、強い意気込みを感じさせが、成功率が思うように結びつかずスナッチ120kg、ジャーク150kg、各々1本ずつでトータル270kgという、彼自身不本意な16位に終わった。

#### <82.5kg級>

PETROV ALEXIとSUSLOV ALEXANDERのCIS同士の激しい優勝争いとなり、トータル357.5kgを挙げ、2.5kg差でPETROVが優勝した。

稻垣(日本大)は、スナッチで132.5kgに成功、波に乗るかと思われたが、ジャークはスタートの162.5kg1本で終わってしまった、脚の弱さを暴露してしまった。

#### <90kg級>

CISのSISIEV SERGEIに、最後までブルガリアのKEHAYOV MARINが追いすがったが、ジャークの実力が上回るSISIEVが逃げ切りの優勝を果たした。

佐野が出場。大会前にフォームを改造し、しかも大幅な減量があったにもかかわらず、スナッチ140kg、ジャーク175kg、トータル315kgの自己新記録をマーク、健闘の7位となつた。

#### <100kg級>

重いクラスほど強いCISの力の差はこのクラスから明らかになり、STASENKO VADIMがブルガリアのHRISTOV IVAYLOVにトータルで20kgの大差をつけて敵無しの優勝を遂げた。



ジュリーとして活躍の三宅義信氏(左)  
三宅氏の右に、かつてのIWF会長の  
ジョンソン氏(アメリカ)の顔が見える

#### <110kg級>

CISのDUNAMALIAN NORAIRが、2位のSTAR K TIBOR(ハンガリー)に、42.5kgの圧倒的な差をつけて楽勝優勝した。

日本選手の最後は、このクラス出場の吉本(法政大)。競技を始めて僅か満2年という経験不足が心配されたが、その心配をよそに安定した試技でスナッチ130kg、ジャーク165kgトータル295kgを挙げ、日本選手としては最高の順位5位入賞を果たし、最後を締め括ってくれた。

#### <+110kg級>

CISのCHEMERKIN ANDREIが、さらに他の国の選手との差を開き、57.5kgの大差でトータル400kg丁度を挙げて優勝。

5月12日の出発から26日の帰国まで、五輪の選考を常に念頭に置いての遠征であった。当事者である選手にかかるプレッシャーは相当なものがあり、このような状況の中で最後まで望みを捨てずに未知の重量に挑戦した若者たちに、次回アトランタへの飛翔を期待する。



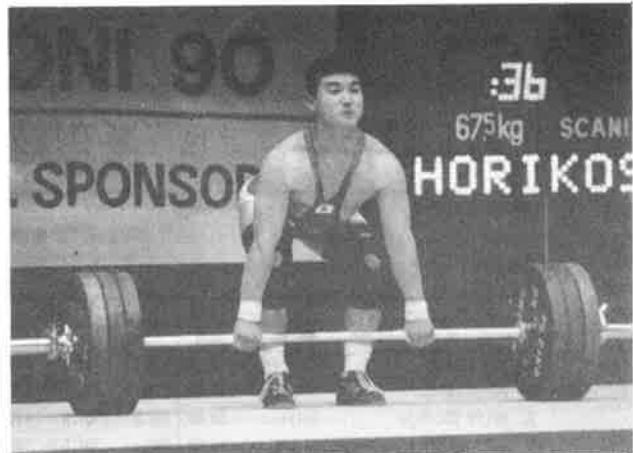
トルコの52kg級のMUTLU、手が小さいためか念を入れてしっかりとグリップ。



56kg級伊森、ジャーク142.5kg、支え切れずバーを後方に落とす。



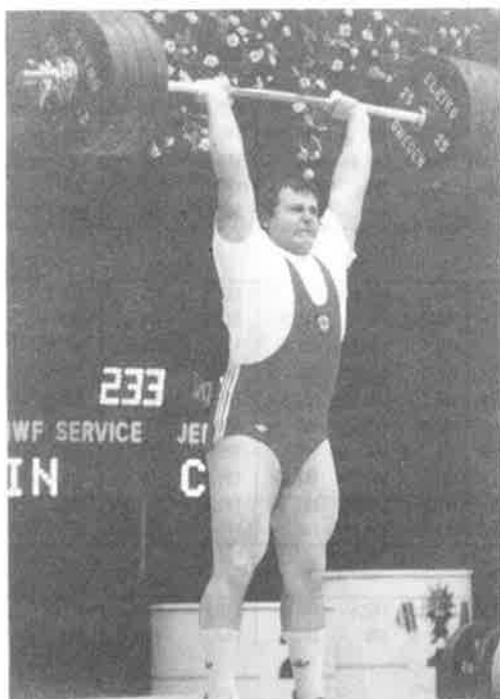
スナッチ110kgを举起る60kg級の橋。



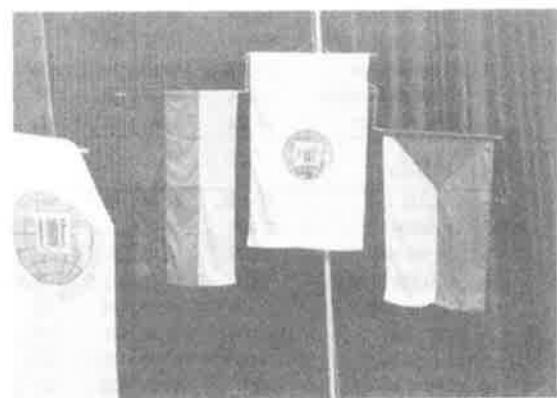
史上初親子二代オリンピック選手！ 67.5kg級堀越。



この落差！  
100kg級NAJDEK(ポーランド)  
192.5kg失敗(左)、  
197.5kg成功種目別銅メダルの感動の瞬間(右)。



+110kg級ジヤーク233kg、久々のスーパーへビージュニア世界新！と思ひきや、2：1の失敗。



優勝CIS！ 国旗のない気持ち複雑でしょうね。IWFの旗でなくなるのはいつの日？

## 第18回ジュニア世界選手権大会

● 1992年5月16日~24日 ● ブルガリア バルナ

### 52kg級

順位	氏名	国名	体重	スナッチ			ジャーク			ベスト		トータル
				1	2	3	1	2	3	スナッチ	ジャーク	
1	LIU WEIGUO	CHN	52.00	107.5	112.5	115 ×	135	140	142.5	112.5	142.5	255
2	MUTLU HALIL	TUR	51.85	105	110	112.5	132.5	137.5	140 ×	112.5	137.5	250
3	MILEV BORISLAV	BUL	52.00	102.5	107.5	110 ×	127.5	130	132.5 ×	107.5	130	237.5
4	IGAY OLEG	CIS	51.80	100	107.5 ×	107.5 ×	120	127.5 ×	127.5	100	127.5	227.5
5	YAGCI MEHMET	AUS	52.00	95	97.5	100 ×	117.5	122.5 ×	122.5 ×	97.5	117.5	215
6	WANG HSIN YUAN	TPE	50.70	85	90	90 ×	110	115	120 ×	90	115	205
7	MOHAMED OSMAN	EGY	51.90	90	95 ×	95 ×	115	120 ×	120 ×	90	115	205
8	OL IENIC GENADY	ISR	51.30	85	90 ×	90 ×	100	105	110	85	110	195

### 56kg級

順位	氏名	国名	体重	スナッチ			ジャーク			ベスト		トータル
				1	2	3	1	2	3	スナッチ	ジャーク	
1	MINTCHEV SEVDALIN	BUL	55.60	112.5	117.5	120 ×	140	145	150	117.5	150	267.5
2	CHEN TAO	CHN	55.80	115 ×	117.5	120 ×	145	150	152.5 ×	117.5	150	267.5
3	PETROV PETAR	BUL	55.75	115	120 ×	120	135	140	142.5	120	142.5	262.5
4	TZELILHS G.	GRE	55.95	105 ×	105	107.5	132.5	137.5 ×	137.5 ×	107.5	132.5	240
5	MATTIAM SAMSON	CMR	55.95	97.5	102.5	105 ×	125	130	135 ×	102.5	130	232.5
6	CIUPA RYSZARD	POL	55.60	97.5 ×	97.5	100	125	127.5	132.5 ×	100	127.5	227.5
7	眞志堅 剛	JPN	55.65	95	100	102.5 ×	122.5 ×	122.5	125	100	125	225
8	GIESELE RALF	GER	55.85	95 ×	95	100	120	125	127.5 ×	100	125	225
9	CSIZMAZIA GABOR	HUN	55.55	97.5	102.5	105 ×	120 ×	120	122.5 ×	102.5	120	222.5
10	PILAIO LUIGI	ITA	55.90	95	100 ×	100 ×	122.5	127.5	130 ×	95	127.5	222.5

### 60kg級

順位	氏名	国名	体重	スナッチ			ジャーク			ベスト		トータル
				1	2	3	1	2	3	スナッチ	ジャーク	
1	TCHANKOV ILIAN	BUL	60.00	120	125	127.5	150	155	157.5	127.5	157.5	285
2	LI CHUANGHUAN	CHN	60.00	120	125	130 ×	155 ×	157.5 ×	157.5	125	157.5	282.5
3	VAGCI MUCAHIT	TUR	59.60	120	125	127.5 ×	150	155	160 ×	125	155	280
4	KAMALOV ILGIS	CIS	59.75	115	120	122.5	150 ×	150	160 ×	122.5	150	272.5
5	CHO JOON-HO	KOR	59.50	115	120	122.5 ×	150 ×	150	155 ×	120	150	270
6	TOADER MARINEL	ROM	59.85	115	122.5 ×	122.5	140	145	150 ×	122.5	145	267.5
7	LEAL CECILIO	ESP	59.50	115	120 ×	120 ×	145	150 ×	150 ×	115	145	260
8	MOLNAR GABOBOR	HUN	59.55	115	120 ×	120 ×	137.5	142.5	145	115	145	260
9	LEROUX CHRISTOPHER	USA	59.80	105	110 ×	110 ×	145	150	155 ×	105	150	255
10	TOROCZKOI RADU	ROM	59.85	110	115 ×	115	130	135	140 ×	115	135	250

### 67.5kg級

順位	氏名	国名	体重	スナッチ			ジャーク			ベスト		トータル
				1	2	3	1	2	3	スナッチ	ジャーク	
1	YANG LEI	CHN	67.40	142.5	147.5 ×	147.5 ×	175	185 ×	185 ×	142.5	175	317.5
2	LI JUNRONG	CHN	67.25	137.5	140 ×	142.5 ×	165	170	172.5	137.5	172.5	310
3	KIM HAK-BONG	KOR	67.05	125 ×	125	130	165	172.5 ×	172.5	130	172.5	302.5
4	ZELIAZKOV PLAMEN	BUL	67.20	142.5	147.5 ×	147.5 ×	160	167.5 ×	175 ×	142.5	160	302.5
5	FILIMOV SERGEJ	CIS	67.30	130	140	142.5 ×	162.5	167.5 ×	167.5 ×	140	162.5	302.5
6	堀越 典昌	JPN	67.50	125	130 ×	130	157.5	162.5	165 ×	130	162.5	292.5
7	FELECAN IOAN	ROM	67.40	120	125	130 ×	155	160 ×	160	125	160	285
8	ODABASI MEHMET	TUR	67.35	120	125	130 ×	150	157.5 ×	157.5 ×	125	150	275
9	MAXINEAU LUCIAN	ROM	65.05	117.5 ×	117.5	122.5	147.5	152.5 ×	152.5 ×	122.5	147.5	270
10	AMADOU MOUSSA	CMR	66.50	110	115	117.5 ×	152.5	160 ×	160 ×	115	152.5	267.5

### 75kg級

1	VSIAVSKI EVGENI	CIS	74.65	147.5 ×	147.5	155 ×	177.5	182.5	185	147.5	185	332.5
2	IVANOV KRASIMIR	BUL	74.05	140	145 ×	145	175 ×	175	185	145	185	330

順位	氏名	国名	体重	スナッチ			ジャーク			ベスト		トータル	
				1	2	3	1	2	3	スナッチ	ジャーク		
3	POLTSCHKE ANDREY	GER	73.90	140	145	147.5×	165	170	172.5	145	172.5	317.5	
4	QUAN QIYONG	CHN	71.15	140	×	140	145	160	165	170	145	170	315
5	STEINETZ RENE	GER	73.80	130	135	×	135	157.5	162.5	167.5	135	167.5	302.5
6	AVRAM FLORIN	ROM	74.20	127.5	132.5	137.5	150	155	160	×	137.5	155	292.5
7	LESLIE JADE	AUS	74.10	120	125	127.5×	155	160	162.5	125	162.5	287.5	
8	MITROU V.	GRE	74.00	125	130	×	130	×	155	160	×	160	285
9	RAFAT GALAL	EGY	74.50	120	125	130	×	160	×	160	×	160	285
10	NEUBACHER KARL HEINZ	AUT	75.00	127.5×	127.5	132.5×	157.5	162.5×	162.5×	127.5	157.5	285	

### 82.5kg級

1	PETROV ALEXEI	CIS	82.15	152.5	157.5	162.5	195	200	×	200	×	162.5	195	357.5	
2	SUSLOV ALEXANDR	CIS	81.45	155	160	162.5	192.5	200	×	200	×	162.5	192.5	355	
3	WANG YUANFENG	CHN	81.80	152.5	157.5×	160	×	185	195	200	×	152.5	195	347.5	
4	BORISOV VESELIN	BUL	82.20	150	157.5	160	×	180	×	180	×	157.5	180	337.5	
5	PUZAANOVSKI S.	LAT	77.50	140	142.5	145	×	172.5	177.5×	177.5	142.5	177.5	177.5	320	
6	ALPHONSE MATAM	CMR	82.05	137.5	142.5	145	×	172.5×	172.5	177.5	142.5	177.5	177.5	320	
7	IORDACHE ION	ROM	81.05	140	145	150	×	165	170	175	×	145	170	315	
8	TREMBLAY SERGE	CAN	79.55	140	145	×	145	×	170	×	170	×	140	170	310
9	CHELMOWSKI IRENEUSZ	POL	82.10	132.5	137.5	140	170	177.5×	177.5×	140	170	170	310		
10	BRANDT LARS	GER	82.10	127.5	135	×	135	160	165	×	165	135	165	300	

### 90kg級

1	SISIEV SERGEY	CIS	88.95	157.5	162.5	165	×	192.5	197.5	205	×	162.5	197.5	360
2	KEHAYOV MARIN	BUL	89.00	152.5	157.5	162.5	185	190	200	×	162.5	190	352.5	
3	OH BYUNG-RYONG	KOR	89.15	145	150	152.5	182.5	187.5	190	×	150	187.5	337.5	
4	FRANCOIS DENIS	FRA	85.75	142.5	147.5	150	×	172.5	175	180	×	142.5	175	317.5
5	MACERAIS DARIUS	LIT	86.80	145	150	×	150	172.5	175	175	×	145	172.5	317.5
6	CARRIO LORENZO	ESP	86.50	135	140	142.5	165	170	172.5	142.5	172.5	172.5	315	
7	佐野 銜	JPN	89.90	135	140	145	×	165	170	175	140	175	315	
8	ALI BIGLARI	IRN	89.00	135	142.5	142.5	172.5	172.5	175	135	175	175	310	
9	KOLODZIEJ ARIUR	POL	87.80	135	140	×	140	165	170	175	×	135	170	305
10	SCHARDT MARKO	GER	88.85	125	130	132.5	160	165	170	170	×	130	165	295

### 100kg級

1	STASENKO VADIM	CIS	99.85	165	170	175	×	195	200	×	200	170	200	370
2	HRISTOV IVAYLO	BUL	92.90	147.5	152.5	155	185	192.5	195	155	195	155	195	350
3	ZLATEV ZDRAVKO	BUL	97.30	142.5	147.5	150	×	192.5	197.5	202.5	147.5	202.5	202.5	350
4	NRJDJEK PAWEŁ	POL	99.60	145	150	×	152.5	185	192.5	197.5	152.5	197.5	197.5	350
5	SCHERBATY VICTOR	LAT	99.25	155	×	155	160	185	190	192.5	155	190	190	345
6	GALINKE MARIO	GER	90.90	145	×	145	150	185	192.5	195	150	192.5	192.5	342.5
7	KANG MIN-SEOK	KOR	94.95	150	155	×	155	170	182.5	190	150	182.5	182.5	332.5
8	MUNDINGER STEFAN	GER	91.25	132.5	137.5	140	177.5	182.5	182.5	182.5	140	182.5	182.5	322.5
9	MAVRIDIS G.	GRE	99.70	145	150	152.5	175	180	180	180	145	175	175	320
10	TORMA ISTVAN	HUN	99.95	140	145	147.5	170	175	175	175	145	170	170	315

### 110kg級

1	DUMANLIAN NOVAKIR	CIS	109.30	162.5	170	180	195	215	225	×	180	215	215	395
2	STARE TIBOR	HUN	108.85	150	155	160	180	187.5	192.5	160	192.5	155	192.5	352.5
3	SAMBERG DIRK	GER	108.70	142.5	150	155	170	180	185	155	180	155	180	335
4	GLAB KRZYSOF	POL	100.10	135	140	140	160	165	167.5	135	165	165	165	300
5	吉本 久也	JPN	105.25	125	130	135	160	165	170	170	130	165	165	295
6	GRIMSETH STIAN	NOR	103.90	132.5	132.5	132.5	152.5	157.5	160	160	132.5	157.5	157.5	290
7	GONZALES EDRIAS	PUR	105.80	115	125	130	155	160	162.5	167.5	130	160	160	290
8	VORRIS K.	GRE	108.45	125	132.5	132.5	155	162.5	167.5	125	162.5	162.5	162.5	287.5
9	SCHIANDO PIETRO	CSA	104.65	117.5	122.5	125	150	155	157.5	125	157.5	157.5	157.5	282.5
10	MLAYEH NAJEH	TUN	107.45	107.5	112.5	115	137.5	142.5	147.5	115	147.5	147.5	147.5	262.5

+110kg級

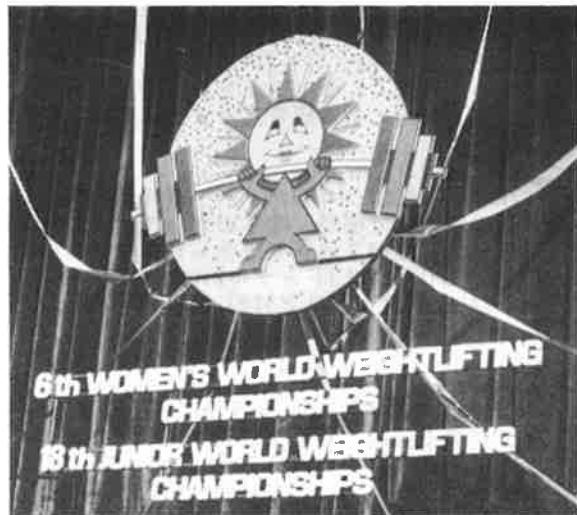
順位	氏名	国名	体重	スナッチ			ジャーク			ベスト		トータル				
				1	2	3	1	2	3	スナッチ	ジャーク					
1	CHEMERKIN ANDREI	CIS	131.75	165	175	185	×	210	225	233	×	175	225	400		
2	PISCHAN DANIEL	GER	114.10	140	147.5	152.5		180	185	190		152.5	190	342.5		
3	SOBOTKA PETR	TCH	124.00	150	155	157.5		175	180	185	×	157.5	180	337.5		
4	LATTA PIOTR	FOL	110.05	145	150	152.5	×	175	×	180		185	×	152.5	180	332.5
5	CRISAN ADRIAN	ROM	110.25	150	155	157.5	×	172.5	177.5	182.5	×	155	177.5	332.5		
6	SOBOTKA PAVEL	TCH	121.85	145	×	145		170	175	180	×	150	175	325		
7	ALAA KAMEL	EGY	115.75	130	135	137.5	×	165	170	172.5		135	172.5	307.5		
8	GUGLU SEZGIN	TUR	123.45	135	×	135		140	162.5	167.5	172.5	×	135	167.5	302.5	
9	FAYE JASHA	USA	117.50	135	×	135		140	165	170	×	170	×	135	165	300
10	TEACH JEFF	USA	111.90	122.5	127.5	132.5		160	165	170	×	132.5	165	297.5		

チ 一 ム 得 点 表

順位	国名	52	56	60	67.5	75	82.5	90	100	110	+110	合計	得点
1	CIS	36/1		35/1	36/1	46/1	87/2	48/1	46/1	48/1	48/1	430/10	
2	BUL	39/1	88/2	48/2	38/1	42/1	37/1	42/1	78/2			412/10	
3	CHN	46/1	41/1	41/1	85/2	38/1	41/1	12/1				304/8	
4	GER		20/1		16/1	71/2	16/1	15/1	55/2	39/1	39/1	271/10	
5	TUR	44/1	23/2	40/1	23/1	21/2	10/1					23/1	184/9
6	ROM			44/2	45/2	25/1	33/2					35/1	182/8
7	POL		27/1				20/1	20/1	37/1	36/1	37/2	177/7	
8	JPN	9/1	31/2	18/2	31/1	4/1	7/1	27/1		32/1		159/10	
9	GRE	5/1	36/1			23/1	/1		38/2	34/2	17/2	153/10	
10	KOR			33/1	38/1			39/1	27/1			137/4	
11	USA			18/2	/1		10/1	11/1	10/2	21/1	40/2	110/10	
12	HUN		24/1	24/1					17/1	42/1		107/4	
13	EGY	26/1				19/1				12/1		27/1	84/4
14	AUS	33/1	9/1			25/1				9/1			76/4
15	CMR		31/1		16/1		28/1						75/3
16	ITA		17/1		9/1	15/2	/1	17/1				12/1	70/7
17	TCH											69/2	69/2
18	LAT						31/1		34/1				65/2
19	CAN			13/2	1/1	11/1	35/2						60/6
	ESP			27/1	5/1			28/1					60/3
20	FRA				17/2	/1		34/1					51/4
21	TPE	37/2	5/2	1/2	/2	2/2							45/10
22	NOR					/1		9/1		28/1			37/3
23	LIT							30/1					30/1
24	PUR									26/1			26/1
25	IRN		/2	/1				24/1					24/3
26	ISR	22/1											22/2
27	AUT					21/1	/1						21/2
28	ARG		11/1	9/1	/1								20/3
29	TUN			1/1	3/1			/1		17/1			17/2
30	GBR						8/2	2/1					14/5
31	SWE										13/1		13/1
32	BEL			11/1									11/1
33	POR	7/1	/1						/1				7/3
34	ALG				/1				5/1				5/2
35	YUG				/1			/1			/1		/2
	MEX												

## 第6回女子世界選手権大会

# 中国全階級制覇！



大会シンボルマーク“太陽さん”

第18回ジュニア世界選手権大会と、同時期同会場でブルガリアのバルナにおいて開催された、第6回女子世界選手権大会は、世界各国から、9階級110名の文字どおりの“ウーマンパワー”が参加した。

### <44kg級>

GUAN HONG(中国)は、スナッチ2回目73kg 3回目75kgを成功させ、ジャーク1回目96kgをクリーンで失敗してヒヤーさせたが、2回目に成功、3回目の100kgにも成功、トータル175kgとあっさり世界記録を大幅に更新し、2位のKUNJARANI(インド)を32.5kg離して優勝。中国チームは率先よいスタートを切った。3位は、KUNJARANIにトータルで2.5kg及ばない140kgを挙げ、よく健闘したFLOWERS SIBBY(アメリカ)が入った。

### <48kg級>

LIU XIAN(中国)がスナッチ82.5kg、ジャーク105kg、トータル187.5kgで、昨年の霸者RIFATOVA IZABELA(ブルガリア)に、12.5kg差で優勝。RIFATOVAもスナッチ78.5kg、ジャーク98.5kg、トータル175kgの世界新記録を樹立、よく健闘したが一步及ばなかった。

日本の斎藤さと美は、本大会から1階級上げて48kg級に初挑戦、スナッチ65kg、ジャーク82.5kg、トータル147.5kgで6位に入賞したが、ジャークの3回目で87.5kgを挙げたものの右肘が緩み惜しくも失敗の判定を採られて

しまった。しかし、一段と力強さが増してきたので次が楽しみである。

二人目の田中智子はベテランらしからぬ、直前の体重調整で失敗、スナッチ、ジャーク共に1本成功のトータル142.5kgで9位に終わった。今後の奮起を期待したい。

### <52kg級>

PENG LIPING(中国)がスナッチ87.5kg、ジャーク115kg、トータル202.5kgの世界新記録で、2位のSTOEGA SIYKA(ブルガリア)を30kg離して優勝。STOEGAはトータル172.5kgで、BYRD ROBIN(アメリカ)と同記録体重差で上位を分け合った。

植村ひろみはスナッチ75kgと順調な滑り出しあっが、ジャークでさらに上位を狙って挑戦した95kgが立てず5位に甘んじた。今春社会人1年生になったばかりで、ややトレーニング不足が脚力に影響したと思われる。

### <56kg級>

SUN CAIYAN(中国)は、スナッチ92.5kg、ジャーク117.5kg、トータル210kgで2位のSIMOVA NELI(ブルガリア)に27.5kgの差をつけ、世界新記録で優勝、3位はNI CHIAPING(台北)がトータル177.5kgで入った。

阿部真美はトータル170kgで4位と健闘したが、もう1本成功率が悪く、種目別のメダルを逃した。阿部の安定感はこのところ充実してきたので、さらに勝負どころでの精神面の強さを伸ばしてもらいたい。

初出場の石戸恵子は、ブレッシャーのためかスナッチで67.5kgを3回共失敗、失格してしまった。気をとりなおし、ジャークで90kgを挙げ実力の片鱗をみせてくれたが、若いだけにこの経験を次回に生かせるよう努力を期待したい。

### <60kg級>

LI HONGYUN(中国)は、スナッチ97.5kg、ジャーク125kg、トータル222.5kgと、2位のCHRISTOFORDUM(ギリシャ)に27.5kgの差をつけ、これまた世界新記録で優勝。3位はWON SOON YI(韓国)が、トータル192.5kgで昨年に続いて3位に入賞した。

安田直子は、膝の故障でやや不安があったにもかかわらず、ジャークの最後の試技でも100kgに果敢に挑戦するなどよく健闘したがトータル170kgで10位と、順位的には恵まれなかった。

阿部知子は、スナッチは70kgから慎重なス

タートをしたが、緊張のあまり舞台でリズムを崩し、失格に終わってしまった。基礎が強いだけに精神面の強化がこれからの課題であろう。

#### <67.5kg級>

GAO LIJUAN(中国)は、スナッチ92.5kg、ジャーク130kg、トータル222.5kgで、一昨年の75kg級の覇者、地元のTRENDAFILOVA MILENA(ブルガリア)に、今大会の中国選手唯一人、他国の選手に接戦を許したが、ジャークで逆転して優勝した。

2位のTRENDAFILOVAは、5kgの減量で1階級下がり、ひそかに優勝を狙っていての挑戦であり、スナッチではパーフェクト試技で98kgの世界新記録を挙げトップに立った。

3位はMARTNES M DOLORES(スペイン)が、トータル192.5kgで韓国のKIM DOMHEEを抑え、初の銅メダルに輝いた。

安宅あかねは順調な滑り出しで、スナッチ72.5kgに成功し波に乗っていたが、3回目の75kgのスクワット姿勢でバランスを崩しかけ必死にこらえ、バーを膝上に落とし打撲傷を負い、あわやジャークは棄権の状況に追い込まれた。しかし、気力を振り絞り、スタートを下げる95kg、97.5kgを成功させ、トータル170kgで9位に入る健闘を見せた。窮屈に追い込まれながら、ここまでやった頑張り精神に自信を持ち、今後の飛躍に結びつけて欲しい。

#### <75kg級>

HUA JU(中国)は、スナッチ107.5kg世界新記録、ジャーク130kg、トータル237.5kg世界タイ記録で、2位の長谷場久美に32.5kgの大差をつけて優勝した。しかし、2位争いはTA

KACS MARIA(ハンガリー)、BRICK THERESA(カナダ)との僅差によるものとなり、スナッチではJHONSON ARLYS(アメリカ、旧姓COVACH)が92.5Kgを挙げて種目別2位とリードしたがジャークで失格、脱落してしまうなど波乱含みなものであった。

長谷場はスナッチで3人同記録90kgの体重差の最上位、3位というラッキーなスタートを切ったが、ジャークに入っても110kg、112.5kg、そして115kgといずれも決めて、トータルでも体重差で、チャンスをしつかり掴んで離さず、昨年に引き続き堂々2位に輝いた。

#### <82.5kg級>

ZHANG XIAOLI(中国)が、トータル252.5kgの世界新記録で優勝。昨年の75kg級と合わせて2階級制覇の2連覇を果たした。2位はCHEN SHU CHIH(台北)トータル210kg、3位TOSH EVA VALKNA(ブルガリア)197.5kgの順であった。

#### <+82.5kg級>

LI YAJUAN(中国)は、女子ウエイトリフティングの王国の“女王”の貫禄を示すかのごとく、圧倒的な実力差を見せ、スナッチ115kgジャーク150kg、トータル265kgの世界新記録を樹立、中国全階級制覇のフィナーレを飾った。2位はTAKACS ERIKA(ハンガリー)トータル215kg、3位SEGURA ERIDANIA(ドミニカ)トータル202.5kgであり、ドミニカは最終日にして初の銅メダルを獲得した。

団体成績では、優勝中国、2位ブルガリア3位台北に次いで、日本チームは4位となつた。



あかねチャン“太陽さん”とそっくり！



48kg級LIU(中国)は、RIFATOVAのスナッチ世界新記録をさらに大幅に4kgも更新。



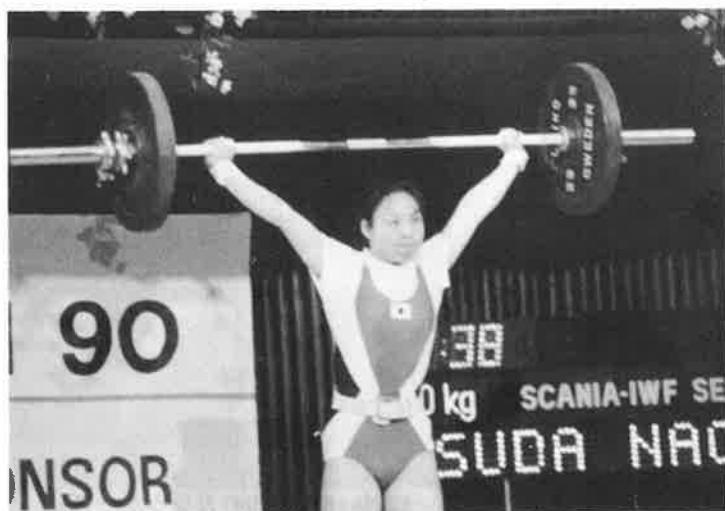
48kg級斎藤のスナッチ65kg、安定した試技で成功、頭上支持の瞬間。



52kg級植村の力強いスナッチ75kg。



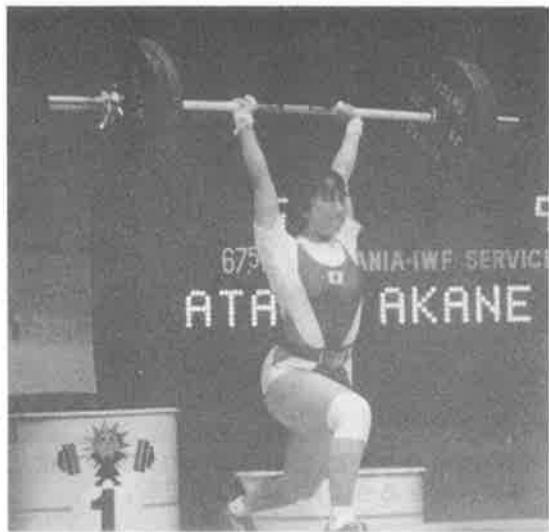
56kg級阿部(真)、4位入賞を決めたジャーグ97.5kg、呼吸を整え差すぞの精神統一。



60kg級安田は、思い切りのよいスナッチで75kgに成功。



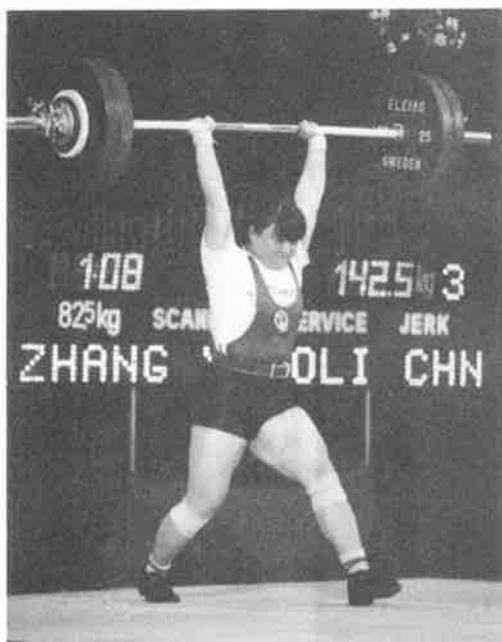
67.5kg級TRENDAFIROVA(ブルガリア)の、なんとなく女らしさを感じる、ガツツポーズ。



67.5kg級安宅、初出場ながら気力で挙げたジャーク97.5kg。



75kg級長谷場、着実にジャーク115kgを決め、2位入賞に輝いた。



82.5kg級ZHANG(中国)は、ジャーク世界新記録142.5kgに成功、昨年の75kg級に続き2階級を制覇。



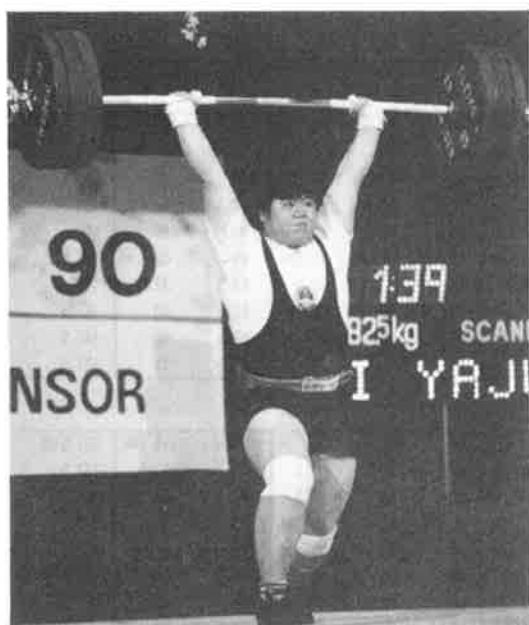
82.5kg級ZHANGのガツツポーズ。



+82.5kg級DATTA(インド)、ジャーク3位を狙い  
112.5kgに挑戦したが惜しくも失敗に終わる。



+82.5kg級ISKIN(フランス)、スナッチ2位のガットポーズ。



+82.5kg級LI(中国)、女子リフターも150kg  
をジャークする時代に入った。

女性のレフリ  
ーが増えてき  
ました。



「持ち挙げるウー！」 「だめヨ、あなたは大人  
になってもこの試合には出られないの！」 「い  
やだ、ヤルウー」 「だってあなた僕なのヨ！」



足でバーベルの位置を直すなんて、チ  
ョット考えさせられますネ。

## 第6回世界女子選手権大会

● 1992年5月16日~24日 ● ブルガリア バルナ

### 44kg級

順位	氏名	国名	体重	スナッチ			ジャーク			ベスト		トータル
				1	2	3	1	2	3	スナッチ	ジャーク	
1	GUAN HONG	CHN	43.70	67.5	73 WR	75 WR	96 ×	96 WR	100 WR	75 WR	100 WR	175 WR
2	KUNJARANI N.	IND	43.65	57.5	62.5	65	77.5	80 ×	80 ×	65	77.5	142.5
3	FLWERS SIBBY	USA	43.95	62.5×	62.5	65 ×	77.5×	77.5	80 ×	62.5	77.5	140
4	WANGKIRI SA NGA	THA	43.70	60 ×	60	65 ×	77.5×	77.5	80 ×	60	77.5	137.5
5	FOLDI CSILLA	HUN	44.00	60	62.5×	62.5	75	77.5×	77.5×	62.5	75	137.5
6	HUANG TSUIHUA	TPE	43.80	52.5	57.5×	57.5×	67.5	70	72.5	52.5	72.5	125
7	YU HSIU FEN	TPE	43.90	55	60 ×	60 ×	70	75 ×	75 ×	55	70	125
8	MANCA DANILA	ITA	43.00	55	60 ×	60 ×	65	72.5×	72.5×	55	65	120
9	POULIN MANON	CAN	43.60	52.5	55	57.5×	65	70 ×	70 ×	55	65	120

### 48kg級

順位	氏名	国名	体重	スナッチ			ジャーク			ベスト		トータル
				1	2	3	1	2	3	スナッチ	ジャーク	
1	LIU XIUHUA	CHN	47.70	75	80	82.5WR	100	102.5	105 WR	82.5WR	105 WR	187.5WR
2	RIFAIKOVA IZABELA	BUL	47.75	70	75	78.5WR	90	95	98.5WR	77.5WR	97.5WR	175 WR
3	MINICHEVA DONKA	BUL	48.00	67.5	70	72.5×	90	92.5×	92.5	70	92.5	162.5
4	LI YONG HA	PRK	47.90	67.5	72.5	75 ×	87.5	92.5×	92.5×	72.5	87.5	160
5	BASILIAH	INA	47.70	65	67.5×	67.5×	82.5	85	87.5×	65	85	150
6	齊藤さと美	JPN	47.60	62.5	65	67.5×	82.5×	82.5	87.5×	65	82.5	147.5
7	SOTOMA MA DOLORES	ESP	47.45	62.5	65	67.5	75	77.5×	77.5	67.5	77.5	145
8	CHU NAN MEI	TPE	47.25	62.5	67.5×	67.5×	75 ×	80	85 ×	62.5	80	142.5
9	田中 智子	JPN	47.80	62.5	65 ×	65 ×	80	85 ×	85 ×	62.5	80	142.5
10	PENIA ELSA	DOM	47.80	60	62.5	67.5×	70	75	80 ×	62.5	75	137.5

### 52kg級

順位	氏名	国名	体重	スナッチ			ジャーク			ベスト		トータル
				1	2	3	1	2	3	スナッチ	ジャーク	
1	PENG LIPNG	CHN	51.70	82.5	85	87.5WR	110	112.5	115 WR	87.5	115 WR	202.5WR
2	STOEOVA SIYKA	BUL	51.75	75 ×	75	80 ×	90	95	97.5	75	97.5	172.5
3	BYRD ROBIN	USA	51.95	77.5	80 ×	80 ×	92.5	95	97.5×	77.5	95	172.5
4	ADAK CHAYA	IND	51.80	72.5	75	77.5×	92.5	95	97.5×	75	95	170
5	植村ひろみ	JPN	51.65	72.5	75	77.5×	92.5	95 ×	95 ×	75	92.5	167.5
6	GEORGIEVA JANETA	BUL	51.90	70	75	77.5	90	95 ×	95 ×	77.5	90	167.5
7	BUMMAREAD RATCHANEE	THA	51.70	70 ×	70 ×	70	80	82.5	90 ×	70	82.5	152.5
8	CHEN LI CHUAN	TPE	51.80	65	70	72.5	80	87.5×	87.5×	72.5	80	152.5
9	SHIN YOUNG-JU	KOR	51.35	65	70 ×	70 ×	85 ×	85	90 ×	65	85	150
10	MISIRLI K	GRE	51.90	57.5×	57.5	62.5×	70	77.5×	77.5×	57.5	70	127.5

### 56kg級

順位	氏名	国名	体重	スナッチ			ジャーク			ベスト		トータル
				1	2	3	1	2	3	スナッチ	ジャーク	
1	SUN CAIYAN	CHN	55.85	85	90	92.5	110	115	117.5	92.5	117.5	210 WR
2	SIMOVA NELI	BUL	54.10	77.5	80	82.5×	97.5	100	102.5	80	102.5	182.5
3	NI CHIA PING	TPE	55.80	77.5	80 ×	80	97.5	100 ×	102.5×	80	97.5	177.5
4	阿部 真美	JPN	55.70	75	77.5×	77.5×	95	97.5×	100 ×	75	95	170
5	MAALESWARI L.	IND	55.00	70	75	77.5×	92.5	95 ×	95 ×	75	92.5	167.5
6	NIRO NANCY	CAN	55.55	75	77.5×	77.5×	90	95 ×	95 ×	75	90	165
7	GARZA URSLA	USA	56.00	70	72.5×	72.5×	87.5	90	92.5×	70	90	160
8	SUTA KHSSARAPORN	THA	53.80	67.5	72.5×	72.5×	87.5	92.5×	92.5×	67.5	87.5	155
9	KALDOGERA A.	GRE	55.80	60	65	67.5×	80	85	87.5	65	87.5	152.5
10	ADAM SVETLANA	CIS	55.15	67.5	70 ×	70 ×	82.5×	82.5×	82.5	67.5	82.5	150

### 60kg級

1	LI HONGYUN	CHN	59.85	90	92.5	97.5	115	120	125	97.5	125	222.5WR
---	------------	-----	-------	----	------	------	-----	-----	-----	------	-----	---------

順位	氏名	国名	体重	スナッチ			ジャーク			ベスト		トータル	
				1	2	3	1	2	3	スナッチ	ジャーク		
2	CHRISTOFORIDOU M.	GRE	59.30	82.5	87.5	90	102.5	105	110	×	90	105	195
3	WON SOON YI	KOR	59.90	82.5	87.5×	87.5	102.5	105	110	×	87.5	105	192.5
4	KIRILOVA GERGANA	BUL	58.75	80	85 ×	85 ×	100	102.5	105		80	105	185
5	KERKELOVA DANIELA	BUL	59.75	75	80	82.5×	95	100 ×	100		80	100	180
6	MALENFANT JULIE	CAN	59.70	75 ×	75	80	92.5	97.5	100 ×	100	80	97.5	177.5
7	PUTCHAKARN WASSANA	THA	58.70	75 ×	75	80 ×	95	100 ×	100		75	100	175
8	CHANU L. ANITA	IND	58.75	75	80 ×	80	95	100 ×	102.5×		80	95	175
9	CHEN JUI LIEN	TPE	59.60	77.5	82.5×	82.5×	90 ×	90	95		77.5	95	172.5
10	安田 直子	JPN	58.75	70	75	77.5×	90	95	100 ×		75	95	170

### 67.5kg級

1	GAO LIJUAN	CHN	67.40	92.5	97.5×	100 ×	123 WR	130 ×	130 WR	92.5	130 WR	222.5 WR
2	TRENDAFILOVA MILENA	BUL	67.35	90	95	98 WR	115	120 ×	123.5 WR	98 WR	123.5 WR	220 WR
3	MARTINEZ M. DOLORES	ESP	67.10	80 ×	82.5	87.5	100	105	107.5×	87.5	105	192.5
4	KIM DONG-HEE	KOR	67.40	80	82.5×	82.5	100	107.5	112.5×	82.5	107.5	190
5	ROSE JEANETTE	GBR	67.50	82.5	87.5×	87.5×	105 ×	105 ×	105	82.5	105	187.5
6	DRAIBING BEATE	AUT	66.90	72.5	77.5	80	100	105 ×	105 ×	80	100	180
7	SAMUELSSON SUSANNA	FIN	67.30	75	80 ×	80 ×	95	100	102.5	75	102.5	177.5
8	ROMBLEY JENNY R.	DOM	65.70	75	80 ×	80 ×	92.5×	92.5×	95	75	95	170
9	安宅あかね	JPN	66.35	67.5	72.5	75 ×	95	97.5×	97.5	72.5	97.5	170
10	MARY ISABELLE	FRA	66.90	72.5	75 ×	75 ×	92.5	97.5	102.5×	72.5	97.5	170

### 75kg級

1	HUA JU	CHN	71.45	100	105.5 WR	107.5 WR	125	130 WR	138 ×	107.5 WR	130 WR	237.5 WR
2	長谷場久美	JPN	68.55	87.5	90	92.5×	110	112.5	115	90	115	205
3	TAKACS MARIA	HUN	70.80	87.5	90	92.5×	110	112.5	115	90	115	205
4	BRICK THERESA	CAN	70.30	85 ×	85	90	107.5	112.5	115 ×	90	112.5	202.5
5	LEPPALUOTO KAROLINA	FIN	74.85	85 ×	85	90 ×	110 ×	110 ×	110	85	110	195
6	MANNANOVA VENERA	CIS	74.05	80 ×	80	85	105	110 ×	112.5×	85	105	190
7	PATHCOKSKAY OKSANA	CIS	72.50	77.5	80	82.5×	100	102.5	105 ×	80	102.5	182.5
8	PENSON SALLY	AUS	72.20	72.5×	72.5×	72.5	90	95	97.5	72.5	97.5	170
9	KOCHLIARIODU F.	GRE	70.05	65	72.5×	72.5×	82.5	90 ×	90	65	90	155

### 82.5kg級

1	ZHANG XIAOLI	CHN	76.05	102.5	108 WR	110 WR	135	140	142.5	110	142.5	252.5 WR
2	CHEN SHU CHIH	TPE	81.15	90	95 ×	95	112.5	115	—	95	115	210
3	TOSHEVA VALKANA	BUL	76.25	80	85	87.5×	107.5 ×	107.5	112.5	85	112.5	197.5
4	TOBIAS VERONIKA	HUN	81.15	85	90	92.5	100	105 ×	105 ×	92.5	100	192.5
5	MARY LINE	FRA	80.30	80	85 ×	85 ×	102.5	105	110 ×	80	105	185
6	WECKLERT ROBIN	AUS	75.40	77.5	82.5×	82.5×	100	105	107.5×	77.5	105	182.5
7	ANDREWS LAUREN	USA	77.70	72.5×	72.5	77.5	100	105 ×	105 ×	77.5	100	177.5
8	CHEN HSIAO LIEN	TPE	81.15	75	80 ×	80 ×	95	97.5	102.5×	75	97.5	172.5
9	BONIOTIZI S.	GRE	82.45	70	72.5	75 ×	92.5	97.5×	97.5×	72.5	92.5	165
10	PROTOPSAL TOU OL.	GRE	81.25	67.5×	67.5	70	85	90 ×	90 ×	70	85	155

### +82.5kg級

1	LI YAJUAN	CHN	122.25	110	115 ×	115 WR	140	145	150 WR	115 WR	150 WR	265 WR
2	TAKACS ERIKA	HUN	101.15	90	92.5×	92.5	117.5	120	122.5	92.5	122.5	215
3	SEGURA ERIDANIA	DOM	95.25	90 ×	90	92.5	105	110	115 ×	92.5	110	202.5
4	GRIGURKO LUBOV	CIS	88.90	85	90 ×	90	110 ×	110	112.5×	90	110	200
5	ISKIN SYLVIE	FRA	89.60	87.5	90 ×	92.5	100	105 ×	105 ×	92.5	100	192.5
6	DATTA JYOTSNA	IND	82.60	75	80 ×	80	105	107.5	112.5×	80	107.5	187.5
7	SINGBEIL BEYCE	CAN	83.40	82.5×	82.5	87.5×	105 ×	105	112.5×	82.5	105	187.5
8	MAO YIN HUA	TPE	89.35	80	85 ×	85 ×	92.5	102.5	105 ×	80	102.5	182.5
9	AKTIPPI AN.	GRE	90.65	67.5	72.5	75 ×	82.5	87.5×	87.5	72.5	87.5	160
10	KATSOURIDI A.	GRE	95.05	65	72.5×	75 ×	82.5	90	95 ×	65	90	155

手一ム得点表

順位	国名	44	48	52	56	60	67.5	75	B2.5	+82.5	合計得点
1	CHN	48/1	48/1	48/1	48/1	48/1	46/1	48/1	48/1	48/1	430/9
2	BUL		80/2	73/2	42/1	68/2	44/1		38/1		345/9
3	TPE	53/2	25/1	24/1	39/1	20/1			66/2	24/1	251/9
4	JPN		52/2	34/1	43/2	21/2	22/1	41/1			213/9
5	GRE			25/2	19/1	41/1		20/1	39/2	37/2	181/9
6	USA	38/1	15/1	38/1	26/1	13/2		14/1	28/1		172/8
7	IND	42/1		35/1	34/1	30/2				30/1	171/6
8	HUN	34/1				17/1		37/1	34/1	40/1	162/5
9	CAN	23/1			31/1	29/1		36/1		28/1	147/5
10	CIS				18/1			56/2		36/1	110/4
11	THR	36/1		24/1	23/1	26/1					109/4
12	KOR			22/1		38/1	37/1				97/3
13	FRA					9/1	19/1		33/1	32/1	93/4
14	DOM		18/1			/1	23/1			38/1	79/4
15	AUS				14/1			23/1	32/1		69/3
16	ESP		27/1			/1	38/1				65/3
17	FIN						27/1	31/1			58/2
18	ITA	26/1	37/1			/1	15/1	15/1			41/3
19	PRK					3/1	33/1				37/1
20	GBR										36/2
21	INA		31/1								31/1
22	AUT						/1	29/1			29/2
23	POR		12/1				/1	12/1			24/3
24	TCH									10/1	10/1
25	ISR						/1				/1

## クラブ紹介

# 宮城県農業高校重量挙部

宮城県農業高校は、ほぼ宮城県の中央に位置する名取市にあり、東には太平洋の沿岸線が連なり、西には東北縦貫道、国道4号線、JR東北線が通っているほか、東北唯一の国際空港「仙台空港」があります。

学校の歴史は、明治18年に創立されて今年で106年になり、農業高校では日本でいちばん歴史のある学校です。

宮農ウエイトリフティング部は、学校の歴史に比べると、総部13年と浅く、卒業生もようやく40名を数えるようになりました。

これまで目立った成績は、昭和61年のインターハイ団体5位、平成3年の静岡インターハイにおいて団体優勝などがあり、個人では現在、大学で活躍している佐藤和夫(日体大)がいます。また、最近は、県総体の他に東北大会規模の試合も行なわれるようになり、設備面でも充実してきており、伝統のある部に成長しつつあります。



柴田農林高校の優勝から22年、やっと宮城県に優勝旗を持ちかえることが出来た。  
感激の平成3年度インターハイ表彰式。

## 主な練習内容

シーズン中とオフシーズンの練習内容は、週単位、月単位で変えていきます。シーズン中はオリンピック競技種目から入り、それに関連した補強種目で構成されています。オフシーズンは、スクワット系、プレス系、引き系の種目を選び、全身がバランス良く発達す

るように構成しています。日常の練習は、授業終了後4時から6時まで行なっています。朝の練習や6時以降の練習は、自主練習となります。

## 練習の特徴

集団心理による集団催眠を利用し、自己暗示による自己催眠で自己の持っている防衛反応と闘いながら、記録を伸ばしていく練習が特徴です。

宮農ウエイトリフティング部を一言で表すと、“雑草集団”踏まれたり、枯りとられたりした雑草でも、鉢に上げて日光、水、肥料を与え、丁寧に育てれば立派な花が咲く。そして実をつけ、また来年新しい芽が出てくるそのような力強い部です。

## 部員紹介

監督 塚目利喜雄  
副顧問 大槻英雄  
コーチ 遠藤洋一

<3年> (平成3年12月現在)			
主 将	菊地雄一(75kg級)	S 105	J 137.5
副主将	赤坂克之(110kg級)	S 125	J 157.5
	三浦貴公(52kg級)	S 95	J 120
	岩佐博史(56kg級)	S 80	J 100
	岩佐正広( " )	S 102.5	J 125
	板垣誠二(60kg級)	S 97.5	J 127.5
	星 尚之(67.5kg級)	S 90	J 120
	庄子信喜( " )	S 90	J 110
	沼田忠義(75kg級)	S 110	J 140
	佐藤利弘(100kg級)	S 100	J 130

<2年>			
主 将	大友孝幸(100kg級)	S 110	J 130
副主将	吉川裕貴(90kg級)	S 102.5	J 140
	鈴木和之(52kg級)	S 82.5	J 107.5
	菊地隆弘( " )	S 72.5	J 85
	内山 誠(60kg級)	S 75	J 90
	土師啓文(75kg級)	S 80	J 100
	小山 章(82.5kg級)	S 80	J 100
	志子田直樹(110kg級)	S 100	J 122.5

<1年>			
	柳沢将之(52kg級)	S 42.5	J 52.5

柄久保剛( 56kg級)	S	52.5	J	62.5
阿部利幸( " )	S	65	J	80
引地真也( 60kg級)	S	62.5	J	80
宍戸隆弘(67.5kg級)	S	57.5	J	90
鈴木由行( " )	S	72.5	J	85
柴崎智和( " )	S	65	J	87.5
寺嶋龍治(82.5kg級)	S	80	J	97.5
高橋祐一( 90kg級)	S	62.5	J	85

## 感心する練習より 感動する練習



塙目利喜雄監督 教員になりたての頃、私は『スクールウォーズ』というテレビドラマをよく見ました。ドラマの中で母校日体大のOB、山口監督率いる伏見工業高校ラグビー部が、花園で全国優勝を成し遂げるのを、感動しながら見ていました。当時はそんな私が宮農高に赴任して3年で、まさか『スクールウォーズ』そのままをウエイトリフティング部で体験できるとは、思いもよませんでした。

高校入試には、自分の意思とは違っても、中学校の教師からの指示や勧めで、学校を選択しなければならない現実があります。こういう現実の入試で打ちひしがれて入学してきました生徒たちに、私は、部活動をやろうという意欲を、なんとか植えつけようと努力してきました。この入試制度の中で生徒たちを日本一にするのは、正直なところ並大抵ではありませんでした。教師の私には様々な葛藤がありましたが、そんな中で導きだされた練習の発想は、日本一の練習をすることと、どうせやるなら日本一という開き直りの精神でした。このことを私は生徒に説き、絶えず言い続けました。

日本一の練習とは、感動する練習のことです。試合では、勝っても負けてもそこに感動は生まれます。しかし、普段の練習の中で感動することはあるでしょうか？ たしかにどこの学校でもよくやっているなあと、感心させられる練習はありますが、感動する練習をしている学校はあまり無いように思います。私は、生徒たちが自己の持っている防衛本能と闘いながら限界に挑戦している姿を見ていて、鳥肌が立ち、寒気がしたり、自然に涙が出たりしました。そういう練習が感動する練習であり、日本一の練習であると考えています。そのような感動する練習が年間何回でき



スクワットの強化を最重要視し、200kg以上を目標に励む部員達。正月明けの強化合宿のスナップ。

るかで勝負は決まるのです。

以上のような練習をしている中で、生徒たちの「自分たちは中学時代だめだった。」という意識が変わっていき、親の意識や学校、先生方も変わり、日本一をめざせる環境が作られていきました。最近では宮城県知事や名取市からも表彰を受け、地域の協力も得られるようになってきました。全国初優勝で得たものは本当に大きかったと思います。



宮崎の今年のインターハイも、僕らが団体総合優勝を狙います。

昨年の全国高校総体での宮城県農業高校重量挙げ部の団体初優勝には、関係各位が注目しましたが、初優勝の裏には、こんなすばらしい理念を持つ、指導者がいたのです。ウエイトリフティング発展のために、益々精進して下さい。

# JOCスポーツマンカード 入会者 募集中！

クレジットカードの時代  
です。

どうせ持つなら日本ウエイ  
トリフティング協会マー  
ク入りスポーツマンカード  
をどうぞ。

オリンピック選手強化に  
ご協力下さい

入会して頂き、カードを  
ご利用されると、利用金額  
の一部が、日本ウエイトリ  
フティング協会に支払われ  
オリンピック選手強化資金  
として使われます。

スポーツマンならではの  
特典もありますので、是非  
お早めにお申し込み下さい。

—お申し込み・お問い合わせは—

JOCスポーツマンカード事務局

〒150 東京都渋谷区神南1-1-1

岸記念体育会館内

☎03(3481)2444



がんばれ、ウエイトリフティング。



JOCマスコット=愛称「ボロン」  
VISAジャパンの協賛により誕生しました。

このカードを持って、  
日本のスポーツ界を応援しましょう。



社団法人日本ウエイトリフティング協会

# 続いている未来に私たちがいるよ。 忘れないでいよう。



9月12日土曜日。学校週5日制がよいよい始まります。これは子供たちだけのお話ではありません。先生や、お母さんはもちろん、お父さんや、お隣りのお姉さん、お兄さん、近所のおじさん、おばさん、おじいちゃん、おばあちゃん全員に関わるお話です。ですから当然、お店や会社で働く人たちにも関係してきます。

たった一日のことかもしれません。けれど、とても意味のある一日なのです。だってそこにはたくさんの可能性が含まれているのですから。子供たちの未来、大人たちの未來、よりよい社会に私たちが暮らせるよう、長い目で見ていくことは、とても意義のあることなのです。その第一日目を成功させ、つなげていくために、それぞれの立場から、みんなでこの土曜日に参加していくではありませんか。

## 9月12日土曜日

私たち一人一人が参加する生涯学習の  
コミュニケーションメモリアルです。

9月12日を、さまざまな形で子供と大人が、ゆとりと真の幸福について考えるための活動が行われる日にしたいと思います。文部省では、この趣旨に賛同し参加して下さる団体、企業をお待ちしています。

連絡先…文部省生涯学習局 生涯学習振興課 民間教育事業室／〒100 東京都千代田区霞が関3丁目2番2号 TEL 03-3581-4099

## お 原 貞 い

本誌の内容を豊かにするために、競技会の写真、情報、論文等、何でも結構ですので、下記宛にお寄せ下さい。

〒150 東京都渋谷区神南1-1-1 岸記念体育会館内  
(社) 日本ウエイトリフティング協会  
普及委員会出版担当宛

## 補 足 説 明

※ 「会報」の記録記載は、各体重階級の10位者迄（ただし、国際競技会出場日本選手はこの限りではない。また、高校総体及び国民体育大会は20位迄記載する。）とし、全出場者の記録は「年鑑」に掲載します。

※ 記録表中の記号等は、以下の意味を表します。

WR=世界新記録	JR=日本新記録
WJ=ジュニア世界新記録	JJ=ジュニア日本新記録
AR=アジア新記録	UR=大学日本新記録
AJ=ジュニア・アジア新記録	HR=高校日本新記録
NR=日本以外の国の国内新記録	MR=中学日本新記録
NJ=日本以外の国の国内ジュニア新記録	
□=各種タイ記録（除く大会記録）	
○=大会新記録	
△=大会タイ記録	
★=特別試技	

---

## ウエイトリフティング NO. 53

(社) 日本ウエイトリフティング協会会報

発 行 日 平成 4年 8月20日  
発 行 者 (社) 日本ウエイトリフティング協会  
普及委員会

東京都渋谷区神南1-1-1

岸記念体育会館内

TEL 03 (3481) 2359

FAX 03 (3481) 2394

編集責任者 専務理事 桜井 勝利  
編 集 長 普及委員会委員長 関口 健

---





